

社会情報学科専門科目（令和6年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	概要	開放
基礎 科目	40010		行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40020		情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
	40031		ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
	40040		統計学入門	②	30	1	後期	山田 忍		教養
人間 社会と 心理	40110		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 前期開講（8～9月）	教養
	40120		社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
			社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40170		社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40180		集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
			社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養	
		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅			
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	山田 忍	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	山田 忍		教養
			ファイナンス演習	2	30	2	前期	山田 忍		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	貴田岡 信	連続2時限の受講をもって1回の 授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	西平 直史		教養
	40381		経営情報論（DX論）	2	30	1・2	後期	高浜 快斗		
	40392		経営管理論	2	30	1	後期	高浜 快斗		
		経営情報演習	2	30	2	前期	西平 直史			
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同 「メディア表現論」を既修である ことが望ましい。	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
			メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		教養
	40571		情報コミュニケーション	2	30	1	後期	伊豆田義人		教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人		教養
	40590		データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
			プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子			
40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養	
基礎 ゼミ	40710		基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵		
	40720		基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
	40730		基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
	40740		基礎ゼミ四	2	30	1	後期	山田 忍		
	40750		基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
	40760		基礎ゼミ六	2	30	1	後期	伊豆田義人		
	40770		基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門 ゼミ			専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵	本年度開講せず	
			専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
			専門ゼミ四	4	60	2	通年	山田 忍		
			専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
			専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
			専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
			専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
			専門ゼミ九	4	60	2	通年	村井 友樹		
		卒業研究	②		2					

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位

社会情報学科専門科目（令和5年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	概要	開放
基礎 科目			行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			情報社会学	②	30	1	後期	中川 恵		教養
			ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		教養
			統計学入門	②	30	1	後期	栗原 秀幸		教養
人間 社会と 心理	40120		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 前期開講（8～9月）	教養
			社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵	教養	
	40140		社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵	教養	
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵	教養	
			社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦	教養	
			集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦	教養	
	40190		社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦	教養	
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養	
40210		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅			
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	山田 忍	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	山田 忍		教養
	40330		ファイナンス演習	2	30	2	前期	山田 忍		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	貴田岡 信	連続2時限の受講をもって1回の 授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	西平 直史		教養
	40381		経営情報論（DX論）	2	30	1・2	後期	高浜 快斗		
			経営管理論	2	30	1	集中	畠山 健太	後期開講（2～3月）	
40400		経営情報演習	2	30	2	前期	西平 直史			
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同 「メディア表現論」を既修である ことが望ましい。	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40540		メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		教養
			情報コミュニケーション	2	30	1	後期	伊豆田義人		教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人		教養
			データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
	40613		プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
	40614		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子		
40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養	
基礎 ゼミ			基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵		
			基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
			基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
			基礎ゼミ四	2	30	1	後期	—		
			基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期	伊豆田義人		
			基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門 ゼミ	40810		専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵	本年度開講せず	
	40820		専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
	40840		専門ゼミ四	4	60	2	通年	山田 忍		
	40850		専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
	40860		専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
	40870		専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
	40880		専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
	40890		専門ゼミ九	4	60	2	通年	村井 友樹		
40910		卒業研究	②		2					

(注)・「○数字」は必修単位、「[]○数字」は選択必修単位

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 行動科学の実証的研究法について理解することができる。 2. スタディスキル（大学での勉強の仕方）を習得することができる。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 行動科学とは何か</p> <p>第3回 条件付け</p> <p>第4回 文献を探そう</p> <p>第5回 レポートを書こう</p> <p>第6回 発表しよう</p> <p>第7回 ディスカッションをしよう</p> <p>第8回 実証的研究法を知ろう</p> <p>第9回 フィールドワークをしよう</p> <p>第10回 アンケートを書こう</p> <p>第11回 統計ソフトを使ってみよう（操作方法について）</p> <p>第12回 統計ソフトを使ってみよう（分析方法について）</p> <p>第13回 実験をしよう（記憶の実験）</p> <p>第14回 実験をしよう（結果の分析と解釈）</p> <p>第15回 研究計画を書こう</p>
授業概要	行動科学の考え方、特にデータを集め、仮説を立て、分析するといった実証的研究法に焦点を当てて講義を行う。また、文献の探し方やレポートの書き方といった「スタディスキル（大学での勉強の仕方）」についても説明する。Teamsを使って課題を出すので、作業をしながら主体的に学んでほしい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会科学や心理学の分野で卒業研究をまとめた人、編入先の大学や会社などで実験、アンケート調査、商品テストなどに携わりたい人に、この科目は役立つと思います。なお、データの分析法についてさらに深く学びたい人は「統計学入門」「社会調査演習」「情報処理演習Ⅱ」などの科目も履修するといいでしょ。
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	情報・社会の基礎的な用語を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／情報科目との接合点）</p> <p>第2回 【読解】二一世紀社会への情報メディア論的視座 ——近代の変容 前編</p> <p>第3回 【読解】二一世紀社会への情報メディア論的視座 ——近代の変容 後編</p> <p>第4回 重要用語の確認／関連研究の紹介・読解</p> <p>第5回 【読解】メディアと身体の物質性からの情報概念再考 ——メディア情報学的研究の展開のために 前編</p> <p>第6回 【読解】メディアと身体の物質性からの情報概念再考 ——メディア情報学的研究の展開のために 後編</p> <p>第7回 重要用語の確認／関連研究の紹介・読解</p> <p>第8回 【読解】人類社会としての「情報社会」 ——「近代社会の学」から「人類社会の学」へ 前編</p> <p>第9回 【読解】人類社会としての「情報社会」 ——「近代社会の学」から「人類社会の学」へ 後編</p> <p>第10回 重要用語の確認／関連研究の紹介・読解</p> <p>第11回 【読解】監視の強化と制御への欲望 ——セカンド・オーダー・サイバネティクスと技術倫理 前編</p> <p>第12回 【読解】監視の強化と制御への欲望 ——セカンド・オーダー・サイバネティクスと技術倫理 後編</p> <p>第13回 重要用語の確認／関連研究の紹介・読解</p> <p>第14回 【読解】コミュニケーション・メディアとメディア間関係の行方 ——コミュニケーション論的転回以後の課題 前編</p> <p>第15回 【読解】コミュニケーション・メディアとメディア間関係の行方 ——コミュニケーション論的転回以後の課題 後編</p>
授業概要	テキスト内容を理解し、論文等の要約文を作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。
テキスト	金子勇・吉原直樹・正村俊之、2024、『情報とメディア』ミネルヴァ書房 定価3,850円(本体3,500円＋税)
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題や質問の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含まれません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。
評価方法	レポート：60%、小テスト（各回の学習内容）：40%
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	授業の目的は、（ア）ホームページの記述言語htmlの基本を学習すること、（イ）htmlによるホームページの作成方法を習得すること、（ウ）実践的にウェブデザインの基本を理解すること、（エ）タイピング能力を向上させることである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。授業システムの解説 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 ブラインドタッチの基本</p> <p>第3回 タイピングの訓練</p> <p>第4回 ウェブページの仕組み</p> <p>第5回 html5の基礎</p> <p>第6回 html5の基本的なタグ</p> <p>第7回 css3の基本的な事項</p> <p>第8回 html5とcss3との関係</p> <p>第9回 html5とcss3による制作</p> <p>第10回 ウェブページの基本的な構造の作成</p> <p>第11回 レイアウト作成の基本</p> <p>第12回 様々なレイアウトの作成</p> <p>第13回 ホームページの作成例</p> <p>第14回 サイトのひな形の作成</p> <p>第15回 期末課題(プロジェクト)の説明</p>
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の1回のみで、それ以降は放課後等の時間に、与えられた長文を入力し、宿題として提出する。htmlおよびcssの学習においては、授業での解説ならびに実習課題のほか、理論・概念への理解を深めるための宿題が毎回出される。期末には問題解決能力の向上を目的とした制作プロジェクトが与えられる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている実践的なスキルの習得を目的としているため、この合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学習範囲が広く、かつ課題が多いので、宿題の時間を確保しておいてください。特に、上記の「時間外学習」において、事後学習の時間の大部分はタイピング課題の作成にかけることになるので、事前経験の多少によりそれ以上の時間が必要です。
評価方法	<p>入力課題：52%。 ※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=52点満点中0点』</p> <p>授業課題：16%。 期末課題：32%。</p> <p>減点の対象：</p> <p>(1) 公欠以外の欠席や無断退室等</p> <p>(2) 遅刻（出欠確認後）</p> <p>(3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動</p> <p>授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある</p>
参考文献	初回に紹介する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
山田 忍			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会においては、様々なデータを正しく扱う知識や能力が求められている。本講義においては、社会科学分野において利用される統計学の基礎的知識と考え方を学び、データの読み方や利用方法を重視し、統計的思考を身につけることを目的とする。具体的な到達目標は、次の通りである。①記述統計の基本的な知識を理解し分析することができる。②確率の概念を説明できる。③推測統計の基礎を学び、入手できていないデータについて推測や分析ができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、統計的な考え方、標本調査</p> <p>第2回 データの種類のとめ方（1）：データの種類と代表値</p> <p>第3回 データの種類のとめ方（2）：分散と標準偏差、変動係数</p> <p>第4回 データの種類のとめ方（3）：図と表の利用</p> <p>第5回 データの種類のとめ方（4）：代表的な確率分布</p> <p>第6回 2種類のデータの関連性（1）：散布図と相関</p> <p>第7回 2種類のデータの関連性（2）：相関係数</p> <p>第8回 まとめと応用（小テスト①）</p> <p>第9回 2種類のデータの関連性（2）：単回帰分析と決定係数</p> <p>第10回 2種類のデータの関連性（2）：重回帰分析</p> <p>第11回 確率論の基礎（1）：確率と確率分布</p> <p>第12回 確率論の基礎（2）：一様分布と正規分布</p> <p>第13回 検定の基礎（1）：推測と検定</p> <p>第14回 検定の基礎（2）：t検定</p> <p>第15回 まとめと応用（小テスト②）</p>
授業概要	本講義では社会科学の研究分野で用いられる統計学の知識となる、記述統計、確率、推測統計についての基礎的内容を学習する。各回の内容について、用語や計算方法を解説した上で、簡単な例題の計算や分析を行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	知識を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	現代社会においては、様々な分野でデータが利活用されています。それらのデータをどのように読むか、また、どのように利用するか等、統計学の知識は、個人や企業の選択や行動に大きな影響を及ぼします。本講義では、数式をなるべく使わず、データの読み方や利用方法を重視し、統計的思考を身につけることを目標とします。
評価方法	「小テスト①」（50%）および「小テスト②」（50%）、合計：100%で評価する。
参考文献	鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放(教養)	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス (学習目標と方針の共有/Teamsの基本動作確認/社会学の特徴)</p> <p>第2回 【読解】言説—現代社会を映し出す鏡</p> <p>第3回 【読解】能力—不完全な学歴社会に見る個人と社会</p> <p>第4回 【レポート作成】文献や資料を調べる方法/フィールドワークをする方法</p> <p>第5回 【読解】仕事—組織と個人の関係から考える</p> <p>第6回 【読解】友だち—「友だち地獄」が生まれたわけ</p> <p>第7回 【レポート作成】論文の仕組み(パラグラフ)/論文の設計図(アウトライン)</p> <p>第8回 【読解】家族—なぜ少子高齢社会が問題となるのか</p> <p>第9回 【読解】居場所—個人と空間の現代的関係</p> <p>第10回 【レポート作成】構成と文章/注記と要約</p> <p>第11回 【読解】排除—犯罪からの社会復帰をめぐって</p> <p>第12回 【読解】分断—社会はどこに向かうのか</p> <p>第13回 重要用語のまとめ</p> <p>第14回 文献要約のまとめ—入門書編—</p> <p>第15回 文献要約のまとめ—論文・専門書編—</p>
授業概要	テキスト内容を理解し、論文等の要約文を作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。
テキスト	本田由紀編、2015、『現代社会論：社会学で探る私たちの生き方』有斐閣ストゥディア ISBN 978-4-641-15018-8
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題や質問の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含まれません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。
評価方法	レポート：60%、小テスト(各回の学習内容)：40%
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入

	門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	

講義科目名称：社会ネットワーク論（40120）

授業コード：40120

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
磯崎 匡			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の社会構造をネットワークに焦点を当て、分析考察することができる。		
授業計画	第1回	ネットワークとはなにか？	
	第2回	ネットワーク理論	
	第3回	ネットワークの歴史（1）前近代まで	
	第4回	ネットワークの歴史（1）近代以降	
	第5回	レポート作成	
	第6回	人間関係とネットワーク（1）友達関係から考える	
	第7回	人間関係とネットワーク（2）身近なネットワークとしてのSNS	
	第8回	人間関係とネットワーク（3）ソーシャルキャピタル	
	第9回	メディアとネットワーク	
	第10回	レポート作成	
	第11回	教育とネットワーク	
	第12回	産業とネットワーク	
	第13回	地域とネットワーク	
	第14回	災害とネットワーク	
	第15回	レポート作成	
授業概要	日本の社会構造をネットワークに着目し議論して、そのありようを描き出す。前半では理論や学説を歴史的に振り返り、後半では各論的に様々なテーマで議論する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	様々なネットワークについて常にアンテナを張るように、日々のニュースや新聞を見聞きし、自分の問題意識を醸成する。		
テキスト	指定テキストはなし。毎時間資料を配付する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業では、出欠確認の代わりに毎日小レポートを課す。成績はその小レポートと別途指定する最終レポートを合算して評価する。		
評価方法	小レポート40%、最終レポート60%		
参考文献	授業中適宜指定する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／関心の所在）</p> <p>第2回 【読解】 地域と都市はどのように実感されるか——「距離」への敏感さ</p> <p>第3回 【読解】 地域・都市はどのように形づくられたか——人びとの空間的共存を捉える視点</p> <p>第4回 【読解】 空間と場所の問い方——マクロ・ミクロからのアプローチ</p> <p>第5回 【読解】 グローバル化とどのように向き合うのか——再生産領域への労働移動から考える</p> <p>第6回 【読解】 ナショナルなものと地域・都市——〈中心〉と〈周辺〉，その先にあるもの</p> <p>第7回 【読解】 ローカル・トラックとは何か——進学・就職をめぐる理想と現実</p> <p>第8回 【第1部、第2部】 地方を実感する 地域に集まる力／世界に広がる力 文献紹介</p> <p>第9回 【読解】 都市の公共空間——人の集まる場所のしくみ</p> <p>第10回 【読解】 都市の不平等はどのように進行しているのか——異質性と排除が結びつくとき</p> <p>第11回 【読解】 コミュニティはどこから来てどこへ行くのか——語りのダイナミズム</p> <p>第12回 【読解】 「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか——ここに生きる意味の承認</p> <p>第13回 【読解】 地域・都市はどこへ行くべきか——地域への問いと社会学的想像力</p> <p>第14回 【読解】 創造と継承——都市の未来，都市の歴史</p> <p>第15回 【第3部・第4部】 地域・都市で生まれる社会 地域・都市のこれから 文献紹介</p>
授業概要	テキスト内容に沿ってグループワークの手法で理解を深めて意見交換をします。 論文等の要約文を作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。
テキスト	平井太郎・松尾浩一郎・山口恵子著、2022、『地域・都市の社会学：実感から問いを深める理論と方法』有斐閣ストゥディア ISBN 978-4-641-15095-9
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義では毎回40分のグループワークを予定しています。配慮が必要な場合はご相談ください。 ・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題や質問の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含まれません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。

評価方法	
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	社会調査の基礎的知識を基に、課題に応じた社会調査を企画する。		
授業計画	第1回	ガイダンス（講義方針の共有／調査技術 調べるといふこと／調査課題と方法の検討） この科目では次の2つのどちらかを選択することを想定しています。 (1) 文献調査：任意の研究課題について先行する研究・知見の資料を検索しレポートを作成する。 (2)（限定的な）質問紙調査：Office365の”Forms”を使ってこの科目の受講生へのアンケートを実施し、その結果を使ってレポートを作成する。	
	第2回	調査技術（文献や資料を調べる） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第3回	調査技術（フィールドワークをする） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第4回	調査技術（例 リスクを調べる） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第5回	調査技術（データ整理からアウトプットへ） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第6回	進捗報告－(1) 文献調査 ・1本目のレポート提出	
	第7回	進捗報告－(2) Forms調査 ・質問票（暫定版）の提出	
	第8回	論理的文章（日本語と論理—伝えるためのマナー） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第9回	論理的文章（議論の日本語—論文をめざして） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第10回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第11回	進捗報告－(1) 文献調査 ・2本目のレポート提出	
	第12回	論理的文章（論証構成の記号化—ツールとしての記号論理） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第13回	進捗報告－(2) Forms調査 ・調査の実施結果を基にしたレポートのアウトライン提出	
	第14回	進捗報告－(2) Forms調査 ・レポートの結論・論理構成の検討	
	第15回	進捗報告－(1) 文献調査 ・3本目のレポート提出	
授業概要	レポート作成に必要な知識の習得をおこないます。 この科目では次の2つのどちらかを選択することを想定しています。 (1) 文献調査：任意の研究課題について先行する研究・知見の資料を検索し、レポートを作成する。 (2)（限定的な）質問紙調査：Office365の”Forms”を使ってこの科目の受講生へのアンケートを実施し、その結果を使ってレポートを作成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	・テーマ選びのための資料検索、資料読解、レポートの執筆・推敲は時間外学習として各自すすめてください ・講義時間の進捗報告ではテーマの絞り込み、レポートへのコメントをおこないます。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			
評価方法	期末レポート（60%）、進捗報告（40%）		
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8		
備考	・調査のテーマは受講生自身が決定します。これまで調べたことのあるテーマの再利用、卒業研究で扱う内容との重複があっても構いません。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／関心の所在）</p> <p>第2回 【読解】環境を守るとはどういうことか？</p> <p>第3回 【読解】誰がしっかりすれば環境は守られるのか？</p> <p>第4回 【読解】暮らしとともにある環境はどのように管理されるのか？</p> <p>第5回 【読解】嫌がられる環境を誰が受け入れるのか？</p> <p>第6回 【第1部】環境への考え方 文献紹介</p> <p>第7回 【読解】人はどのように環境と遊んできたのか？</p> <p>第8回 【読解】日本の草原はどのように維持されてきたのか？</p> <p>第9回 【読解】これまでし尿はどう処理されてきたのか？</p> <p>第10回 【第2部】日常としての環境 文献紹介</p> <p>第11回 【読解】環境と観光はどのように両立されるのか？</p> <p>第12回 【読解】人と野生動物はどのような関係を築いているのか？</p> <p>第13回 【読解】未曾有の災害に人はどう対応していくのか？</p> <p>第14回 【読解】環境をめぐって人々はどのようにいがみ合うのか？</p> <p>第15回 【第3部】他者としての環境 文献紹介</p>
授業概要	テキスト内容に沿ってグループワークの手法で理解を深めて意見交換をします。 論文等の要約文を作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。
テキスト	足立重和・金菱清編著、2019、『環境社会学の考え方：暮らしをみつめる12の視点』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08527-9
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義では毎回40分のグループワークを予定しています。配慮が必要な場合はご相談ください。 ・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題や質問の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含まれません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。
評価方法	

参考文献	<ul style="list-style-type: none">・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-00-31853-8
備考	

講義科目名称：社会心理学（40170）

授業コード：40170

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	印象形成	
	第3回	帰属	
	第4回	推論と問題解決	
	第5回	自己	
	第6回	性格と社会的性格（性格）	
	第7回	性格と社会的性格（社会的性格）	
	第8回	態度（態度の一貫性）	
	第9回	態度（認知的不協和）	
	第10回	説得（精査可能性モデル）	
	第11回	説得（効果的な説得とは）	
	第12回	ノンバーバル・コミュニケーション	
	第13回	同調（古典的研究と服従の心理）	
	第14回	同調（どんな時に同調するか）	
	第15回	役割	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、社会的認知、対人関係、集団内行動といった、主に個人の内部や対人間で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「心理学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも参加してください。なお、後期の「集合行動論」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：集合行動論（40180）

授業コード：40180

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	利他主義（援助行動）	
	第3回	リーダーシップと集団思考（リーダーシップの理論）	
	第4回	リーダーシップと集団思考（集団成極化現象）	
	第5回	集団間差別と偏見（集団間葛藤）	
	第6回	集団間差別と偏見（社会的アイデンティティ理論）	
	第7回	交換理論	
	第8回	ゲーム理論と社会的ジレンマ	
	第9回	群集とパニック	
	第10回	流言とデマ	
	第11回	世論とマスコミ	
	第12回	文化	
	第13回	異文化間コミュニケーション	
	第14回	映像でみる集合行動論（前編）	
	第15回	映像でみる集合行動論（前編）	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、集団間行動、集合行動、文化といった、主に集団間や組織されない集団、社会で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「社会的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも参加してください。なお、前期の「社会心理学」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	カウンセリング体験を通して、自己理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	SGEとは	
	第3回	SGEエクササイズを紹介	
	第4回	グループ分け・SGEエクササイズ選び	
	第5回	グループごとに打ち合わせ	
	第6回	SGE体験	
	第7回	SGE体験	
	第8回	SGE体験	
	第9回	SGE体験	
	第10回	SGE体験	
	第11回	SGE体験	
	第12回	SGE体験	
	第13回	SGE体験	
	第14回	SGE体験	
	第15回	ふりかえり	
授業概要	SGE（構成的グループエンカウンター）について概観した後、SGE体験を通して理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	なし。レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	カウンセリングに興味のある学生、ピアヘルパー、ピアヘルパーの資格を取得したい学生を歓迎します。エクササイズを行う都合上、毎回出席を取りますので、できるだけ休まないようにしてください。なお、欠席回数によっては追加レポートを課すことがあります。就職活動や教育実習などで休む場合は事前に連絡してください。		
評価方法	授業への参加度（70%）、課題（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：政治心理学（40200）

授業コード：40200

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	民主主義（これまでの変遷）	
	第3回	民主主義（今日の課題）	
	第4回	イデオロギー（これまでの価値観）	
	第5回	イデオロギー（新しい価値観）	
	第6回	政党支持と選挙（政党支持の種類）	
	第7回	政党支持と選挙（選挙の理論）	
	第8回	政策決定ゲームをしよう（準備編）	
	第9回	政策決定ゲームをしよう（本番編）	
	第10回	政策決定ゲームをしよう（ふりかえり編）	
	第11回	政治的パーソナリティ	
	第12回	政治的社会化	
	第13回	テロリズム	
	第14回	映像でみる政治心理学（前編）	
	第15回	映像でみる政治心理学（後編）	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、政治学、政治過程論、政治心理学などに関するトピックを取り上げます。自治体の政策決定ゲームをしたり、映像を見る機会を設けてあるので、履修される方はぜひ主体的に取り組んでみてください。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 認知心理学への理解を深める。</p> <p>到達目標 人間が記憶したり理解したり思考したりする方法を学ぶことによって、意図的にそれらの方法を用いて生活できる基礎を育む。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（認知心理学とはどのような学問か）</p> <p>第2回 記憶の仕組み（認知心理学と脳科学の視点から）</p> <p>第3回 記憶と再生（記憶はどのようにして再生されるのか）</p> <p>第4回 知識の構造（人はどのようにして認知しているのか）</p> <p>第5回 文章理解の認知過程（読んで理解するということはどういうことか）</p> <p>第6回 言語の外在的意味と内在的意味（発した言葉は相手にどのように伝わっているのか）</p> <p>第7回 第1回から第6回までのまとめ</p> <p>第8回 問題解決の過程（人はどのような思考過程を経て問題に挑んでいるのか）</p> <p>第9回 類推的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある①）</p> <p>第10回 演繹的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある②）</p> <p>第11回 帰納的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある③）</p> <p>第12回 原因帰属（適切に原因を探索するには）</p> <p>第13回 メタ認知（高度な認知とは何か）</p> <p>第14回 認知主義的学習（認知心理学の視点をふまえた学習とは）</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	各授業ごとに、キーワードを明確にしつつ、その概念の理解が深まるように授業を展開します。終末では、キーワードについて自分の既有知識や体験と関連付けながらまとめる活動を行うことにより、概念の定着を図ります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	レポートを課すことがあります。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	認知心理学は脳がどのように働いて人間の行動を決定しているのかを考察する学問でありコンピュータの発展を支えるように深化してきました。全15回の講義を通して少しずつ考えを積み重ねて、自分なりに気づくことを見つけ、認知心理学への理解を深めてほしいと思います。
評価方法	授業・ワークシート・提出課題（関心意欲態度・思考）70% レポート（知識定着・思考）30%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経済学とは、限りある資源を用いて財やサービスを生産し、どうすれば私たちの生活が豊かになるかを考える学問である。「経済学入門」では、現代社会における経済の仕組みや役割、様々な経済現象に対して、経済学的考え方を用いて理解を深める。具体的な到達目標は、次の通りである。①需要と供給の関係を述べることができる。②完全競争企業が利潤最大化となる生産量を決定する過程を述べることができる。③一国経済全体の物価・総需要・総供給や国民所得のとらえ方を理解し説明することができる。		
授業計画	第1回	ガイダンス、経済学とは何か？経済とは何か？	
	第2回	ミクロ経済学の基礎	
	第3回	市場均衡と均衡の安定性	
	第4回	消費の理論－需要曲線と消費者行動－	
	第5回	生産の理論（1）：完全競争企業	
	第6回	生産の理論（2）：独占市場と寡占市場	
	第7回	市場の失敗－外部性と公共財－	
	第8回	まとめと応用（小テスト①）	
	第9回	マクロ経済学の基礎	
	第10回	国民経済計算－国民所得の諸概念と三面等価の原則－	
	第11回	財市場の分析（1）：45度線分析への準備	
	第12回	財市場の分析（2）：国民所得の決定	
	第13回	金融政策	
	第14回	財市場と資産市場の同時分析	
	第15回	まとめと応用（小テスト②）	
授業概要	本講義においては、個々の企業や家計の行動や、ある財・サービスの市場などを分析する「ミクロ経済学」と一国経済全体の物価・総需要・総供給や国民所得といったものの関係が分析対象となる「マクロ経済学」を学ぶ。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	知識の定着のために、復習に必要な時間を十分確保すること。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、大きく2つのアプローチがあります。「ミクロ経済学」は、家族単位のお金の動きである「家計」や、消費者の行動、企業が行う生産や雇用などについて分析するものです。「マクロ経済」は、景気の変動や、それに対する政府の対策など、経済の大きなメカニズムを分析するものです。それぞれの視点から、人々が生産や消費を通じてより豊かな生活を送るためにはどんな手段があるのかを考えます。		
評価方法	「小テスト①」（50%）および「小テスト②」（50%）、合計：100%で評価する。		
参考文献	伊藤元重 『入門経済学』 日本評論社		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本講義においては、企業の投資に関する意思決定の基本的な理論となる「貨幣」「投資の理論」「企業財務の理論」について学ぶ。具体的な到達目標は、次の通りである。①貨幣の「存在理由」「仕組み」を理解し、述べることができる。②業態別の金融機関の特徴、経済活動における役割について比較できる。③ポートフォリオ理論の基礎を学び、合理的な投資行動を分析できる。④企業価値を把握し配当のメカニズムを述べるができる。		
授業計画	第1回	ガイダンス、ファイナンスとは何か？	
	第2回	貨幣の機能	
	第3回	銀行の信用創造と通貨制度	
	第4回	金融取引と金融機関、金融商品の分類	
	第5回	ファイナンス理論の基礎（1）：会計とファイナンスの違い	
	第6回	ファイナンス理論の基礎（2）：将来価値と現在価値	
	第7回	ファイナンス理論の基礎（2）：資本コストの考え方	
	第8回	まとめと応用（小テスト①）	
	第9回	投資の理論（1）：ポートフォリオ理論－安全資産と危険資産－	
	第10回	投資の理論（2）：ポートフォリオ理論－収益率とリスク－	
	第11回	企業財務の理論（1）：財務諸表から見る企業評価	
	第12回	企業財務の理論（2）：投資判断の決定プロセス	
	第13回	企業財務の理論（3）：配当と企業価値	
	第14回	デリバティブ取引とその影響	
	第15回	まとめと応用（小テスト②）	
授業概要	本講義では、ファイナンスにおける基本的な考え方を事例を交えて紹介するとともに、企業の投資に関する代表的な理論を解説する。将来、企業において、経営や財務を担当する場合だけでなく、社会人として、業界の流れを把握し、企業間での取引を客観的に判断するための基礎的な知識を学ぶ。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	知識の定着のために、復習に必要な時間を十分確保すること。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンスとは、会社が事業のためにお金を集めるしくみです。一般に、会社は事業を行うために、金融機関から借入したり、株式を発行したり、さまざまな方法で資金調達をします。そのため、ファイナンスの知識は、ほぼすべてのビジネスに密接に関わることになります。この授業では、将来社会人として活躍するためのファイナンスの基礎知識を学ぶことができます。		
評価方法	「小テスト①」（50%）および「小テスト②」（50%）、合計：100%で評価する。		
参考文献	石野雄一 『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』 光文社新書		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「ファイナンス演習」においては、ファイナンスにおける基礎的な理論や考え方を理解した上で、実際に分析や評価を行う。具体的な到達目標は、次の通りである。①Excelを用いた金融資産の現在価値計算、リスクの評価ができる。②ポートフォリオの評価・選択ができる。③証券市場、コーポレートファイナンス、デリバティブ商品についての各種機能や特徴について説明できる。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	ファイナンス理論の基礎（1）：将来価値と現在価値、金融商品の価値計算	
	第3回	ファイナンス理論の基礎（2）：キャッシュフロー計算書	
	第4回	投資に関する理論（1）：ポートフォリオによる分散投資	
	第5回	投資に関する理論（2）：CAPM（資本資産評価モデル）	
	第6回	投資に関する理論（3）：債権投資	
	第7回	投資に関する理論（4）：株式投資	
	第8回	まとめと応用（小テスト①）	
	第9回	企業財務の理論（1）：財務諸表分析の基礎	
	第10回	企業財務の理論（2）：資本コスト	
	第11回	企業財務の理論（3）：企業価値評価とDCF法	
	第12回	企業財務の理論（4）：資金調達とMM理論	
	第13回	デリバティブの理論（1）：デリバティブの基本	
	第14回	デリバティブの理論（2）：先物取引	
	第15回	まとめと応用（小テスト②）	
授業概要	本講義では金融資産の中心をなす株式・債券に関して、保有によるリターンとリスク、複数の資産を保有することでの分散効果、価値計算の方法等を学習する。各回の内容について、用語や計算方法を解説した上で、Excel利用し、例題の計算や分析を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	知識の定着のために、復習に必要な時間を十分確保すること。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンスとは、「企業における資金の調達・運用」のことを指します。ファイナンスを学ぶにあたっては、専門用語や計算方法も多くありますが、この授業では、それらの内容について、平易な言葉で解説し、簡単な計算や分析をExcelを用いて行います。また、実務において、ファイナンス理論がどのような場面で使われているのかを紹介します。		
評価方法	「小テスト①」（30%）および「小テスト②」（30%）、授業内課題（40%）、合計：100%で評価する。		
参考文献	石野雄一 『道具としてのファイナンス』 日本実業出版社		

備考	USBメモリを持参すること

講義科目名称：簿記会計演習（40340）

授業コード：40340

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	4	選択必修
担当教員			
貴田岡 信			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：企業活動を記録する複式簿記の初歩を学ぶ 到達目標：1. 簿記の記録を通じて企業活動の概要が理解できる。2. 複式簿記にもとづく初歩的な記録を行うことができる。3. 日商簿記検定3級レベルの問題を解答できる。		
授業計画	第1回	ガイダンス 貸借対照表と損益計算書	
	第2回	勘定の構造と記入	
	第3回	仕訳と元帳への転記	
	第4回	試算表と精算表	
	第5回	簿記一巡と決算	
	第6回	現金・預金の記帳	
	第7回	商品売買の記帳	
	第8回	債権債務，手形取引の記帳	
	第9回	固定資産の記帳	
	第10回	株式会社の資本，税金	
	第11回	収益・費用の期末修正	
	第12回	決算整理の処理	
	第13回	8桁精算表の作成	
	第14回	財務諸表の作成	
	第15回	伝票会計	
授業概要	基本的な概念や処理方法について最初に解説を行い，時間内に問題演習と小テストを実施します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で学んだ内容を週に2回（1回2時間）程度復習を行うこと。		
テキスト	必須問題集：『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 中央経済社 850円（税別）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義の位置付け上，簿記の初学者を対象とした授業を行います，高校時代に簿記を学んできた場合であっても新しい発見があるような授業を目指します。		
評価方法	期末試験の成績80% 毎回の小テスト20%		
参考文献	適宜紹介します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 電子商取引（EC），電子マネー，消費者としてECの効果的な活用方法とトラブル防止策を学んで，ECの基本教養を身につけてもらう。 2. 事業者の視点から電子商店の開店方法と運営の基本知識を理解する。 3. 電子商取引関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 商取引と電子商取引</p> <p>第2回 電子商取引の特徴とその影, インターネットビジネス</p> <p>第3回 電子決済と具体的な決済方法</p> <p>第4回 電子マネー，キャッシュレス決済と仮想通貨</p> <p>第5回 電子商取引に関連する法律と行政規制</p> <p>第6回 契約に関する基本知識と消費者契約法</p> <p>第7回 ネット物販業の基本とビジネスモデル</p> <p>第8回 情報提供仲介事業と関連ビジネスモデル</p> <p>第9回 コンテンツ販売事業，金融業における電子商取引とFinTech（フィンテック）</p> <p>第10回 電子商店の始め方，ネットオークションとネットフリマの活用</p> <p>第11回 電子ショッピングモールへの出店方法と独立型ネットショップの構築</p> <p>第12回 電子商店運営の基本知識と基本運営指標</p> <p>第13回 電子商店のマーケティング</p> <p>第14回 EC関連の最新話題（レポート）</p> <p>第15回 総合演習（レポート）</p>
授業概要	消費者と事業者の視点から電子商取引（EC）の基本知識，基本技術および効果的な活用方法などを取り上げて講義する。インターネットの関連情報を活用し，様々な問題の答えを探求することも重視する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発と電子商取引の導入に参加し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 丸山正博：「電子商取引の進展—ネット通販とeビジネス」，八千代出版（2011）。 2. 竹内謙礼：「成功者しか知らない ネットショップ運営 儲かる秘訣が2時間でわかる本」，双葉社（2004）。 3. 二木紘三：「Eコマースのしくみ」，日本文芸社（2000）。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 一般利用者としての必要最低限な情報セキュリティ知識を身につけてもらう。 2. ネットワークにおける各種の危険性と脅威を理解のうえ、基本的な対策を習得する。 3. 情報セキュリティ関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 インターネットとその危険性</p> <p>第2回 情報セキュリティの定義：機密性、完全性、可用性とその他の特性</p> <p>第3回 盗聴の脅威とその対策、暗号化技術の基本知識</p> <p>第4回 侵入・なりすましの脅威と対策</p> <p>第5回 改ざん・破壊の脅威と対策</p> <p>第6回 マルウェア・ウィルスの脅威：基本知識、感染兆候と経路</p> <p>第7回 マルウェア・ウィルス感染防止と駆除対策</p> <p>第8回 情報セキュリティ関連法律のしくみと著作権法</p> <p>第9回 知的財産権と特許法・商標法</p> <p>第10回 コンピュータ犯罪防止法、不正アクセス禁止法と不当競争防止法</p> <p>第11回 クラウドサービスとセキュリティ</p> <p>第12回 SNSとSNSのプライバシー・セキュリティ問題</p> <p>第13回 スマートフォンのセキュリティ対策</p> <p>第14回 情報セキュリティの最新話題</p> <p>第15回 総合演習とレポート</p>
授業概要	情報の盗聴、侵入、破壊とマルウェア・ウィルス感染などの様々な脅威から身を守るための基本知識、基本対策について講義する。インターネットの情報を活用して問題を解決する能力の養成も重視する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発とWebサーバーの設置・運営を担当し、これらの実務経験を生かして、実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて、インターネットから関連の情報を調べたうえ、自分の見方・考え方を整理すること。また、専門用語が多いため、授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて、より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 中村行宏：「情報セキュリティの基礎知識」，技術評論社(2017)。 2. 情報処理推進機構：「情報セキュリティ読本 五訂版：IT時代の危機管理入門」，実教出版(2018)。 3. 岩井博樹：「動かして学ぶセキュリティ入門講座」，SBクリエイティブ(2017)。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西平 直史			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会において、企業という組織の存在は不可欠です。この授業では、社会の重要な構成要素である企業が、現代社会においてどのような役割を果たしているか、どのように経営されているかについて基本的な知識を習得します。この授業を履修した学生は、①経営学とは何かを説明できる。②経営学にはどんな領域があるかを説明できる。		
授業計画	第1回	ガイダンス・企業の歴史	
	第2回	会社とは誰のものか	
	第3回	環境・戦略・組織	
	第4回	競争戦略の基本型	
	第5回	事業のリストラクチャリングと組織改革	
	第6回	ビジネス・システム	
	第7回	破壊的技術への対応と新規事業創造	
	第8回	プラットフォーム・ビジネス	
	第9回	グローバル戦略	
	第10回	経営理念と組織文化	
	第11回	人材のマネジメント	
	第12回	日本的生産システム	
	第13回	成熟市場における製品開発	
	第14回	環境変化期のマーケティング活動	
	第15回	ビジネスの倫理	
授業概要	経営学のトピックについてケースを取り上げながら説明します。また、テキストの「考えてみよう・調べてみよう」にある課題を各自で考察し、小レポートにまとめることで理解を深めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	事前学習としてはテキストを講読しておいてください。事後学習としては、小レポート作成のための調査や考察を行い、小レポートを作成して期日までに提出してください。		
テキスト	ケースに学ぶ経営学 [第3版]，東北大学経営学グループ著，有斐閣ブックス（2019），2970円，ISBN4641184488		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回の授業は前半がテキストからの講義，後半は小レポートに取り組んでもらいます。また，学期末には期末レポートを課します。		
評価方法	小レポート75%，期末レポート25%で評価します。		
参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。		
備考			

講義科目名称：経営情報論(DX論)(40381)

授業コード：40381

英文科目名称：Management and Information Systems(DX)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>経営学の立場からデジタル技術やデータサイエンス、AIに関する知識を多角的かつ包括的に学修する。これらに関する技術や情報は日々加速度的に発展しており、現代社会の企業経営には不可欠な概念である。そこで、まずはデジタル・トランスフォーメーション(DX変革：Digital Transformation)の概念を理解した上で、デジタル技術が企業経営に与える影響を整理する。その上で、企業経営におけるデジタル技術の事例を参照しながら、DX変革の核心をなす価値創造の考え方を学修する。</p> <p>経営情報論(DX論)において登場する概念や枠組みを学修することにより、1. 経営情報論や実社会で用いられる用語や理論について理解して説明することができる、2. 学修した内容や理論を用いて実社会のデジタル経営について理解して説明することができる、3. 実社会のデジタル経営について理解した上で実際の組織の管理運営に応用することができる、という能力を身に付けることが本講義の到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：DX(Digital Transformation)の概要</p> <p>第2回 デジタル経営とビジネスモデル：ICTを活用したデジタル経営とビジネスプロセス/ビジネスモデルの概要</p> <p>第3回 パターン認識と予測：AIによるビジネスの変化とビジネスモデルの変革</p> <p>第4回 最適化：ビジネス・アナリティクスと意思決定のための最適化</p> <p>第5回 サプライチェーン・マネジメント：ビジネスプロセスの管理と強化</p> <p>第6回 ブロックチェーン：ブロックチェーン技術のビジネスへの応用</p> <p>第7回 デジタル経営の戦略とプロセス：顧客価値の創造のためのソリューション提案</p> <p>第8回 DX変革：デジタル技術を活用した暗黙知の見える化とバリューチェーン</p> <p>第9回 リテールAI：サプライチェーンにおける協業</p> <p>第10回 IoTソリューション・ビジネス：ユーザーエクスペリエンスを高めるために</p> <p>第11回 スマートファクトリー：生産ラインのモジュール化</p> <p>第12回 ビジネス・エコシステム：プラットフォームを介したオープン市場のビジネス</p> <p>第13回 スマート農業：持続可能な農業を支える見える化と自動・無人化</p> <p>第14回 オンライン・メンテナンス：DX変革とデータ活用による価値創造</p> <p>第15回 スポーツテック：デジタル技術によるパーソナル化</p>
授業概要	Microsoft社のPowerPointを使用した講義形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>〔事前学習〕 テキストの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認しておくこと(各回1時間程度)。</p> <p>〔事後学習〕 テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用することが好ましい。</p>
テキスト	伊藤宗彦・松尾博文・富田純一(2022).『1からのデジタル経営』中央経済社(税込2,640円)。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。一見して難しいと判断して敬遠するのではなく、いかに物事を簡単に捉えることができるのか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	試験(100%)

参考文献	生稲史彦・高井文子・野島美保(2021).『コア・テキスト 経営情報論』新世社. 遠山暁・村田潔・古賀広志(2021).『現代経営情報論』有斐閣.
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある.

講義科目名称：経営管理論(40392)

授業コード：

英文科目名称：Business Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			講義形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>企業経営の管理(management)という側面に関する代表的な諸理論について学修する。まず、テイラー(Taylor, F. W.)の科学的管理法やファヨール(Fayol, J. H.)の管理原則論などの古典的な経営管理論に焦点を当て、経営管理論とはどのような学問であるのかを理解する。その後、バーナード(Bernard, C. I.)やサイモン(Simon, H. A.)の諸理論や人間関係論、コンティンジェンシー理論、経営戦略論、経営組織論などの近代的な学説を概観し、経営管理の限界点や課題を議論する。</p> <p>経営管理論の代表的な諸理論について学修することにより、1. 経営管理論や実社会で用いられる用語や理論について理解した上で説明することができる、2. 学修した用語や理論を用いて実社会の経営管理について理解して説明することができる、3. 実社会の経営管理について理解した上で実際の組織の経営管理に応用することができる、という能力を身に付けることが本講義の到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション：経営管理とはどのような学問なのか</p> <p>第2回 企業形態論：企業とはどのような存在なのか</p> <p>第3回 古典的管理論：科学的管理法と人間関係論</p> <p>第4回 組織マネジメントの展開：バーナードの組織論とサイモンの意思決定論</p> <p>第5回 モティベーション論：協働の意欲を引き出す要因と過程</p> <p>第6回 リーダーシップ論：優れたリーダーの姿とは</p> <p>第7回 組織構造のマネジメント：分業と調整の仕組み</p> <p>第8回 組織文化のマネジメント：共有された価値観と行動規範</p> <p>第9回 コンティンジェンシー理論：経営組織の環境適応</p> <p>第10回 企業戦略論：ドメインと多角化の論理</p> <p>第11回 競争戦略論：業界の分析とライバル企業との競争</p> <p>第12回 イノベーション論：革新のマネジメント</p> <p>第13回 日本企業の人的資源管理：経営資源としてのヒトの管理</p> <p>第14回 日本企業の生産管理：経営資源としてのモノの管理</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	Microsoft社のPowerPointを使用した講義形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] テキストの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認しておくこと(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用することが好ましい。</p>
テキスト	初回の講義で指定する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	<p>どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。一見して難しいと判断して敬遠するのではなく、いかに物事を簡単に捉えることができるのか、という視点を身に付けていきましょう。</p>
評価方法	試験(100%)

参考文献	伊丹敬之・加護野忠男(2022).『ゼミナール経営学入門(新装版)』日経BP(日本経済新聞出版本部). 上野恭裕・馬場大治(2016).『ベーシック+ 経営管理論』中央経済社. 野中郁次郎(1980).『経営管理』日本経済新聞社.
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西平 直史			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	経営においては様々なデータを集めて分析を行い役立てています。この授業ではMicrosoft社のExcelを用いて、データの基本的な分析を実際に行います。この授業を履修した学生は、①Excelを用いてデータの分析を行えるようになる。②分析した結果を考察できるようになる。		
授業計画	第1回	ガイダンス・Excelの基本操作	
	第2回	データの確認（欠損値，基本統計量など）	
	第3回	データの可視化（グラフ作成）	
	第4回	ピボットテーブルによる分析	
	第5回	ソルバーによる最適化	
	第6回	回帰分析	
	第7回	主成分分析	
	第8回	クラスタリング	
	第9回	決定木	
	第10回	総合演習1（課題の考察とデータ収集）	
	第11回	総合演習2（データの確認，可視化）	
	第12回	総合演習3（分析 1つ目の手法を用いて）	
	第13回	総合演習4（分析 2つ目の手法を用いて）	
	第14回	総合演習5（結果の考察）	
	第15回	まとめとレポート作成	
授業概要	オープンデータセットのデータを用いて、Excelによる分析を行います。9回目までは比較的小規模なデータセットを用いてデータの基本的な分析方法を身につけます。10回目以降は、やや大規模なデータを用いて、実際に分析して考察できるようになることを目指します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業中にわからなかったところを時間外に復習してください。また、授業中に出す課題に取り組んで期日までに提出してください。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実際にExcelを操作してみないと分析方法は身につけません。PCに苦手意識がある人も頑張って取り組んでください。また、分析結果は考察しなければただの数値やグラフです。考察する力を身につけてください。		
評価方法	1回目から9回目の授業で出す課題30%，総合演習のレポート70%		
参考文献			
備考	授業の進み具合によってはシラバスの内容を柔軟に変更する場合があります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業のテーマ及び到達目標は以下の通りです：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史的側面からメディアの発展史とその特徴について概観・記述することができる。 2. 現代社会においてメディアが有している文化的・社会的意義を理解することができる。 3. メディア研究・文化研究における主要な方法論を習得し、その方法論に基づいた視点からの対象記述と分析を行なうことができる。
授業計画	<p>第1回 「メディア」とは何か メディア論の射程</p> <p>第2回 メディアの歴史と「メディア史観」</p> <p>第3回 記号とコミュニケーション</p> <p>第4回 メディアの作用</p> <p>第5回 言語コミュニケーション／非言語コミュニケーション</p> <p>第6回 メディア・アイデンティティ・身体</p> <p>第7回 コミュニケーション様式の変化とメディアのデジタル転回</p> <p>第8回 マスコミュニケーションと日常のグローバル化</p> <p>第9回 メディアと公共圏</p> <p>第10回 監視と権力</p> <p>第11回 現代資本主義と文化産業</p> <p>第12回 欲望と流行のメディア／交換と贈与の体系</p> <p>第13回 視覚文化と表象</p> <p>第14回 コンテンツ分析の方法論</p> <p>第15回 インターメディア／オルタナティブ・メディア</p>
授業概要	メディア論／記号論／映像理論といったメディアをめぐる諸理論を概観し、かつそれらの諸観点に基づいて、メディアとその発展史ならびに文化的特性について分析的に講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を求めます。授業中に案内しますが、普段から良質のドキュメンタリーや報道番組、あるいは映画・映像作品を視聴／鑑賞することを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	池田理知子・松本健太郎編著『メディア・コミュニケーション論』、ナカニシヤ出版、2010年、2200円（本体価格）、購入方法等については別途指示します。その他の資料については適宜プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題レポートを活用した質問・意見交換などを通じて、今日のメディア社会に課せられた諸問題について、皆さんが自分自身で「考える」力を身につけられるように工夫します。
評価方法	授業中の提出課題70%、期末レポート30%。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業のテーマ及び到達目標は以下の通りです： 1. デジタル表現・制作の現場において必要とされる技術的知識を習得できる。 2. メディア表現に関する理論と枠組みを表現史の観点から理解し、記述することができる。 3. 上述の技術や知識が現代のメディア表現においてどのように活用されているかを実際の作品に即して説明することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス デジタルデータの形式</p> <p>第2回 デザインの歴史</p> <p>第3回 イラストレーションとデザイン</p> <p>第4回 文字の情報処理</p> <p>第5回 タイポグラフィとデザイン</p> <p>第6回 色彩の情報処理</p> <p>第7回 商業印刷における色彩表現</p> <p>第8回 色彩調和と配色の理論</p> <p>第9回 著作権とデザイン</p> <p>第10回 写真の歴史</p> <p>第11回 写真表現の理論</p> <p>第12回 (デジタル) 写真の原理</p> <p>第13回 メディア表現と「アート」</p> <p>第14回 デジタル動画とアニメーション</p> <p>第15回 デジタル音楽制作の理論と実践</p>
授業概要	現代のデジタル表現技術に関して、その前提となる表現史、表現理論、ならびに制作の方法論を講義形式で概観します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	タイポグラフィ、色彩論、写真表現、デジタル動画／音楽のそれぞれの分野について、課題レポート／作品レビュー等の定期的な提出を求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実作品の鑑賞や解説などを可能な限り混じえることで、技術的な知識と表現の歴史・技法の解説とが、受講生の皆さんの創作的意欲につながるような授業にします。
評価方法	授業での課題提出・小テスト70%、期末課題30%。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業のテーマ及び到達目標は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を身につけることができる。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解することができる。 3. 上述の方法論を学際的に統合した上での作品分析を行うことができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガ／アニメと教育</p> <p>第3回 マンガ／アニメの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガ／アニメとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ／アニメの物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ／アニメ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガ／アニメと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガ／アニメの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ／アニメ研究における学際性</p>
授業概要	<p>マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、実際の作品分析をワークショップ形式で行います。授業に際してはテキストの購入が必須になります。購入方法については最初の授業で説明します。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。</p>
テキスト	<p>小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。</p>
評価方法	<p>授業中の提出課題50%、期末レポート50%。</p>
参考文献	<p>小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業のテーマ及び到達目標は以下の通りです：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イラストレーション／ポスターデザイン／エディトリアルデザインのソフトウェアの基本的な操作ができるようになる。 2. 単なるソフトウェアの操作技術ではなく、体系的な知識と方法論に基づいた制作を実践できる。 3. 自分自身のオリジナルな表現形式に立脚した作品制作を計画立てて遂行することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ドローソフトによる描画（パス）について</p> <p>第3回 シンボルマークの制作</p> <p>第4回 名刺の制作（文字組みの方法論）</p> <p>第5回 地図・インフォグラフィックスの制作</p> <p>第6回 写真補正の基礎</p> <p>第7回 写真補正の実践と特殊効果</p> <p>第8回 テクスチャー素材とロゴの制作</p> <p>第9回 フライヤーの制作（立案）</p> <p>第10回 フライヤーの制作（レイアウトと構成）</p> <p>第11回 フライヤーの制作（仕上げと講評）</p> <p>第12回 イラストレーションの技法</p> <p>第13回 イラストレーションの制作プロセス</p> <p>第14回 最終課題作品の構想案作成とプレゼンテーション</p> <p>第15回 最終課題作品の制作について</p>
授業概要	<p>Adobe社のIllustrator・Photoshopを用いたデザインやアート表現を、制作を通して実践的に学びます。毎回の演習課題は実地の制作同様のスタイルで進めていきます。自ら考えて表現しようとする意志を要求する授業です。最終的に自由制作課題作品を1点提出してもらいます。</p> <p>本演習は1年次後期の「メディア表現論」を既履修であることを前提としていますので、そのつもりで履修すること（詳細は「受講生へのメッセージ」欄を参照）。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>授業時間中に行うのは、原則としてソフトウェアの機能や操作、何ができるのか、ということの解説が主となりますので、授業で提示した課題については各自時間外に学修・作業をしてもらうことになります。制作のための写真撮影やデジタル素材集め、スケッチ・レイアウト構成の下書きなどの準備作業も必要になります。</p>
テキスト	<p>資料プリントを適宜配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>後期の講義科目の「メディア表現論」の実践演習と捉えてください。「メディア表現論」の履修はカリキュラム上の必須条件ではありませんが、本演習は同講義で解説した知識が習得済であることを前提に行われます。「メディア表現論」の単位を習得せずに本演習を履修しようとする方は必ず事前に面談に来ること（基本的な知識を問うペーパーテストを課します。あらかじめ修得しておくべき知識に不足がみられる場合には履修は認められません）。</p>
評価方法	<p>演習課題の提出70%、最終課題作品（提出必須）30%。</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディアリテラシー（40550）

授業コード：40550

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	メディアの特徴や修辞法を学ぶことにより、メディアが伝えたい物は何かを知り、物事を批評する力を習得できる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	私のメディア史	
	第3回	メディアは構成される	
	第4回	メディアがリアリティを作る	
	第5回	メディアの伝える価値観・商業主義	
	第6回	SNSの広報戦略	
	第7回	ポスターとSNS用広報動画を作ろう	
	第8回	写真撮影の練習	
	第9回	ビデオ撮影と編集	
	第10回	課題作品の制作	
	第11回	課題作品の制作	
	第12回	課題作品の制作	
	第13回	課題作品の制作	
	第14回	課題作品の制作	
	第15回	課題作品発表会	
授業概要	メディアリテラシーに関するトピックを取り上げて講義した後、iMacで画像や動画の編集を行って「メディアは構成される」ことを理解する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2年に一度、山形市で山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催されます。世界の人々の生活や社会問題を取り上げた良質のドキュメンタリー映画が山形でたくさん上映されます。メディアリテラシーの視点を養うことにも役立つと思いますので、関心がある人はぜひ見に行ってください。		
評価方法	課題（70％）、授業への参加度（30％）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	基礎会計学の学習である。この授業では基本から「工業簿記」における「原価計算」について学ぶ。原価とは、工場で製造されている製品や商品の生産にかかる費用のことである。したがって、ここでは、製品、商品を生産する企業の会計・経理に携わる人が行う基本的な手続きについて学習する。いろんな生産方法の原価計算について学習するが、基本的な手続きは同じである。そのため、根底にある考え方さえ理解すれば、「簿記検定2級」の「工業簿記」分野で求められる知識とスキルを習得できる。商業簿記の授業を受講していない人はもちろん、簿記の事前経験を持っていない人も受講できるように授業を構成し、進めていくので、会計や簿記が初めてだという人も受講可能である。		
授業計画	第1回	ガイダンス。工業簿記の考え方。簿記の基本的な事項の復習 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	簿記の基本的な事項・その2	
	第3回	材料費の処理	
	第4回	材料費の処理・その2	
	第5回	労務費の処理	
	第6回	労務費の処理・その2	
	第7回	経費の処理	
	第8回	経費の処理・その2	
	第9回	個別原価計算	
	第10回	個別原価計算・その2	
	第11回	個別原価計算・その3	
	第12回	部門別個別原価	
	第13回	部門別個別原価・その2	
	第14回	部門別個別原価・その3	
	第15回	まとめの問題	
授業概要	工場には、町工場や地方の中小企業のように、製品製造の注文が入ってから製品を製造する企業から、年中無休に大量生産する大企業までさまざまな種類のものがある。そのため、いろんな種類の原価の計算方法がある。また、企業は、コスト管理や在庫管理、利益管理、予算管理などのために、複数の種類の原価計算を行う。この授業では、これらについて学習する。		
実務経験及び授業の内容	製品、商品の製造にかかる費用の計算方法について学習する。		
時間外学習	本科目では1時間ほどの事前学習と事後学習を前提としている。		
テキスト	伊豆田義人『（工業簿記の座学ノート）原価計算入門』株式会社PUBFUN（amazon限定販売）ISBN 9784802085687		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	将来、製造業の企業はもちろん、銀行などの金融機関に勤める人には必須の知識とスキルです。また、モノをつくっている企業がどのように製品の単価を決めているのか、モノの値段を左右する要素は何か、などの理解にも不可欠な基礎知識を習得できるので、ぜひ学習してください。 なお、会計学のもっとも基本的な学習が商業簿記と工業簿記なので、私が担当している前期の商業簿記の授業（応用情報処理演習II・III）も受講してくれば嬉しいですよ。		
評価方法	授業課題およびノートの点検：40%。 期末試験：40%。 平常点：20%。 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動		

	授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	適宜紹介します。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放(教養)			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>この授業では英語の長文読解力および分析力に不可欠な文法を確認する。英語には9つほどの基本的な品詞があり、これらの相対的な語順と語尾変化などの規則(文法)で文が成立する。品詞とは、「名詞」「動詞」などのような、その言語を構成する単語の分類である。よって、品詞の意味、機能、相対的な配置と結合の規則が分かれば、いかなる文でも読解できる。最終的には、以下のような長文の読解のみならず、存在する場合には、文法的な誤りの発見とその理由を説明できる知識とスキルを習得することを目指す。</p> <p>The equipment with some mechanical problems that prevent the production line from manufacturing the goods supplying the local retail stores is to be repaired as soon as the mechanic who is on vacation with his family is back to work which will be next Monday when his children's school, which is a private institution that was founded in 1825 and in the following year merged with another school that focused on STEM, which stands for science, technology, engineering, and mathematics, will start.</p>
授業計画	<p>第1回 文型の確認</p> <p>第2回 動詞1</p> <p>第3回 名詞と冠詞</p> <p>第4回 代名詞</p> <p>第5回 動詞2と助動詞</p> <p>第6回 動詞3</p> <p>第7回 形容詞</p> <p>第8回 副詞</p> <p>第9回 前置詞</p> <p>第10回 分詞1</p> <p>第11回 分詞2</p> <p>第12回 接続詞1</p> <p>第13回 接続詞2</p> <p>第14回 関係詞1</p> <p>第15回 関係詞2</p>
授業概要	英語の長文読解に必要な文法を確認しながら読解力のスキルを習得する。ここでは、文を構成する基本的な9つの品詞の意味、働き、機能と相対的な位置に基づく読解を行うため、コンピュータなどの機械翻訳システムの「形態素解析」と「構文解析」と同様なアプローチをとる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1時間程度の事前と事後学習を前提とする。
テキスト	授業で資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	読解力の向上には品詞の意味、働き、機能と相対的な位置の概念がとても重要です。論理的に、文法という語順の決まりを理解しながら、一緒に英語の長文読解力のスキルを磨きましょう。
評価方法	授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20% 減点の対象：

	(1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	特に指定しない。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>この授業ではマーケティング分野の基本的な考え方について学習する。概して、マーケティングとは、商品に関する価値観を創造しながら、消費者のニーズ（needs）を発掘しウォンツ（wants, 欲求）を満たすために企業が行うあらゆる活動の総称である。狭義の意味では消費者の心理や行動パターン、市場調査、資料・データの収集と分析などにもとづく商品企画・開発、広告宣伝活動・プロモーションなどといった活動である。広義の意味では、マーケティングは企業の理念をはじめ、経営者から一般社員の日ごとの活動の道しるべとなるさまざまな戦略と戦術を表す。</p> <p>このため、今では、マーケティングは企業のみならず、行政や病院、非営利団体などの運営・経営のほか、地域活性化や政治活動などにも取り入れられている。</p> <p>なお、この授業では内閣府認定の「マーケティング3級試験」、「ビジネスキャリア・マーケティング3級」、「マーケティング・ビジネス実務検定C級」の範囲の知識とスキルの習得を到達目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 カイダンス、マーケティング分野の様々な検定の説明</p> <p>第2回 マーケティングの概要</p> <p>第3回 戦略的マーケティング</p> <p>第4回 マーケティング・マネージメント</p> <p>第5回 市場細分化</p> <p>第6回 マーケティング・リサーチ</p> <p>第7回 消費者行動</p> <p>第8回 製品戦略</p> <p>第9回 価格戦略</p> <p>第10回 流通チャンネル戦略</p> <p>第11回 プロモーション戦略</p> <p>第12回 サービスマーケティング</p> <p>第13回 総合問題 1</p> <p>第14回 総合問題 2</p> <p>第15回 プロジェクト</p>
授業概要	マーケティングの基本的な概念，市場環境，戦略的マーケティング，消費者行動，戦略などについて学習する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、9時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は135時間としている。
テキスト	授業で資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>企業は商品に関する価値観を創造しながら、消費者のニーズを発掘し、欲求を満たすための活動を展開します。商品が「売れる・売れない」、つまり、われわれがモノを「購入する・しない」かはその企業のマーケティングに大きく影響されます。</p> <p>マーケティングの知識はビジネス以外のところでも役立ちます。例えば、就活の際に、企業に売り込む自分という“商品”や人流を目的とした地域活性化の活動のための“商品”開発などといった活動へのヒントや参考になると言えるでしょう。</p>
評価方法	<p>授業課題およびノートの点検および授業課題：40% 期末試験：40% 平常点：20%</p> <p>減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等</p>

	(2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	特に指定しない。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】企業で扱う顧客情報や商品情報など、ICT社会の根幹を担うデータベースの基礎的な事項を理解する。</p> <p>【到達目標】業務にて小規模なデータベースシステムを取り扱う場合を想定して、業務に必要なスキルを身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 前半はデータベースに関する基礎知識について学ぶ。後半は前半で学んだ基礎知識をもとにデータベースの実習を行う。</p> <p>第2回 データとデータベース</p> <p>第3回 テーブルとその構造、主キーと外部キー</p> <p>第4回 リレーショナルデータモデル</p> <p>第5回 リレーショナル代数</p> <p>第6回 データの正規化</p> <p>第7回 実習用データベースのテーブル設計、リレーションシップの確認 課題1</p> <p>第8回 実習用データベースにおけるテーブル作成、リレーションシップの作成</p> <p>第9回 実習用データベースにおけるクエリの作成 課題2</p> <p>第10回 実習用データベースにおけるクエリによるレコードの抽出</p> <p>第11回 実習用データベースにおける様々な抽出条件を設定したクエリによるレコードの抽出</p> <p>第12回 実習用データベースにおけるクエリによるグループ化と集計 課題3</p> <p>第13回 実習用データベースにおけるフォーム作成およびフォームを活用したテーブルへのデータ登録</p> <p>第14回 実習用データベースにおけるレポートを活用した帳票とその設計</p> <p>第15回 実習用データベースにおけるレポートを活用した帳票とその設計 期末課題</p>
授業概要	講義ではデータベースに関する基礎的な知識の定着に努めます。実際にパソコンを使ってデータベース実習を行います。実習では講義で培ったデータベースに関する基礎的な知識をもとにして、データベースに関する技術や操作の習得に努めます。データベースシステムはMicrosoft Accessを使用します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしデータベース概論の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題の作成に取り組みます。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	情報リテラシーの基礎は習得済みとして講義を行います。出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。①授業時課題（課題1～課題3）の得点の合計点（各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする）を60%、②期末課題の得点の合計点（各セクションの配点の総合計を期末課題の満点とする）を40%。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。授業時課題および期末課題はルーブリックに基づいて評価を行います。
参考文献	

備考	必携：USBメモリ・配布資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する 【到達目標】プログラムを順序立てて正確に作成できる
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 本講義で使用するプログラミング言語はPythonを用います。</p> <p>第2回 アルゴリズム：順次構造・選択構造・繰り返し構造</p> <p>第3回 開発環境について</p> <p>第4回 変数とデータ型、組み込み関数 課題1</p> <p>第5回 演算子、型変換</p> <p>第6回 リスト、ディクショナリ</p> <p>第7回 モジュールの利用 課題2</p> <p>第8回 条件分岐</p> <p>第9回 複数の条件分岐 課題3</p> <p>第10回 for文による繰り返し処理</p> <p>第11回 while文による繰り返し処理 課題4</p> <p>第12回 リストと繰り返し処理</p> <p>第13回 ユーザ定義関数</p> <p>第14回 (発展) 手書き数字を機械学習で識別させよう</p> <p>第15回 (発展) 手書き数字を機械学習で識別させよう 期末課題</p>
授業概要	プログラムを作成することでコンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング1の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認とその応用を含めた課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	授業中に資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	プログラム作成はトライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業の出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままととなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。①例題プログラム提出点の合計(例題プログラムの総数×5点を満点とする)を30%、②授業時課題(課題1～課題4)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を満点とする)を35%、③期末課題の得点の合計点(配点の総合計を満点とする)を35%。 授業時課題および期末課題の課題プログラムはループリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が多数所蔵されています。
備考	必携：USBメモリ・配布資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する 【到達目標】プログラムを順序立てて正確に作成できる
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、JavaScriptの基本的な記述方法 本講義で使用するプログラミング言語はJavaScriptを用います。</p> <p>第2回 JavaScriptの基本的な記述方法</p> <p>第3回 変数とデータ型</p> <p>第4回 条件分岐：if命令 課題1</p> <p>第5回 処理の多重分岐：else if命令、switch命令</p> <p>第6回 繰り返し処理：while命令、do...while命令 課題2</p> <p>第7回 繰り返し処理：for命令、for...in命令</p> <p>第8回 関数の定義とその利用 課題3</p> <p>第9回 イベントの発生とその取り扱い方法</p> <p>第10回 JavaScriptからHTML要素を扱う 課題4</p> <p>第11回 タイマー処理の実現</p> <p>第12回 Canvas要素によるグラフィック操作</p> <p>第13回 Canvas要素によるグラフィック操作とアニメーション</p> <p>第14回 Canvas要素によるアニメーション</p> <p>第15回 Canvas要素によるアニメーション、まとめ 期末課題</p>
授業概要	プログラムを作成することで、コンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング2の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認とその応用を含めた課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	プログラム作成は一度で全てが上手くいくことはなく、トライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業の出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。①例題プログラム提出点の合計(例題プログラムの総数×5点を満点とする)を30%、②授業時課題(課題1～課題4)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を満点とする)を30%、③期末課題の得点の合計点(配点の総合計を満点とする)を40%。 授業時課題および期末課題の課題プログラムはルーブリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が所蔵されています。
備考	必携：USBメモリ・配布資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ネットワーク、セキュリティなどIT技術に関する基本的な考え方や特徴などを学ぶ。 【到達目標】IT技術やPCの仕組みなどについての知識や技術を説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ヒューマンインターフェース</p> <p>第3回 コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論</p> <p>第4回 集合と論理演算、文字の表現</p> <p>第5回 アルゴリズムとプログラミング</p> <p>第6回 コンピュータ構成要素</p> <p>第7回 システム構成要素</p> <p>第8回 システム構成要素</p> <p>第9回 オペレーティングシステム、ソフトウェア</p> <p>第10回 マルチメディア</p> <p>第11回 ネットワークの形態とプロトコル</p> <p>第12回 インターネットの仕組みとそのサービス</p> <p>第13回 情報セキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティ対策</p> <p>第15回 暗号化技術</p>
授業概要	昨今のICT社会を反映して通常のパソコン操作はできるものの、トラブルには対応できないなどの不安を持つ者も多い。これはITに関する知識や技術の不足が主な原因であるため、講義ではITに関するコア知識を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしIT概論の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。【事後学修】として配布資料や参考文献などをいま一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理してください。(所要時間：各回2～4時間程度)
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	口頭で説明した内容が重要な内容である場合も多いため、配布資料にマーキングを行う、ノートやメモを取るなどをして講義内容を頭で考え理解するように努めることが重要です。出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままととなります。
評価方法	期末試験の点数(100点満点)を100% 期末試験の受験資格は授業回数の3分の2以上の出席を条件とします。期末試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。
参考文献	IT技術に関する書籍やITパスポート試験に関するテキストは図書館などに数多く所蔵されています。例えばITパスポート試験に関するテキストでは、FOM出版「よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」2,420円(税込み)があります。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章が書けるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（講義方針の共有／調査技術 調べるといふこと／調査課題と方法の検討）</p> <p>第2回 調査技術（文献や資料を調べる）</p> <p>第3回 調査技術（フィールドワークをする）</p> <p>第4回 調査テーマの発表</p> <p>第5回 論理的文章（日本語と論理—伝えるためのマナー）</p> <p>第6回 論理的文章（議論の日本語—論文をめざして）</p> <p>第7回 論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論）</p> <p>第8回 中間報告</p> <p>第9回 論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自のレポートに即して</p> <p>第10回 進捗報告(1) ・問いと答え、アウトラインを中心に</p> <p>第11回 進捗報告(2) ・論理構成を中心に</p> <p>第12回 進捗報告(3) ・結語と残された課題を中心に</p> <p>第13回 期末レポート発表—説得型—</p> <p>第14回 期末レポート発表—レビュー型—</p> <p>第15回 コメントを基に期末レポート再構成</p>
授業概要	レポート作成に必要な知識の習得をおこないます。 習得した方法・考え方を使ってレポートを作成する、もしくは論文を分析できる力を伸ばします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選びのための資料検索、資料読解、レポートの執筆・推敲は時間外学習として各自すすめてください。 ・講義時間の進捗報告ではテーマの絞り込み、レポートへのコメントをおこないます。
テキスト	小熊英二、2022、『基礎からわかる 論文の書き方』講談社現代新書 ISBN 978-4-065-28086-7
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・レポートを作成する場合のテーマは受講生自身が決定します。これまで調べたことのあるテーマの再利用、卒業研究で扱う内容との重複があっても構いません。
評価方法	期末レポート（40％）、進捗報告（40％）、期末レポートの発表(20％)
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8 ・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ストゥディア（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、専門ゼミでの研究に向けた基礎的な知識やスキルを習得できる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	テキストの選定	
	第3回	テキストの選定	
	第4回	担当章の割り振り	
	第5回	発表と議論	
	第6回	発表と議論	
	第7回	発表と議論	
	第8回	発表と議論	
	第9回	発表と議論	
	第10回	発表とグループディスカッション	
	第11回	発表とグループディスカッション	
	第12回	発表とグループディスカッション	
	第13回	発表とグループディスカッション	
	第14回	発表とグループディスカッション	
	第15回	ふりかえり	
授業概要	社会心理学や政治学などに関する文献を読んで、各回の担当者がパワーポイントにまとめて発表し、みんなで議論する。この議論を行う中で、就活面接で行われるグループディスカッションの練習も行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	みんなで選んで決める。なおレジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	昨年度は渋谷晶三『この人の言っていることは本当か？』、一昨年度は植上一希・伊藤亜希子（編）『日常のなかの「フツー」を問いなおす』を読みました。今年度もゼミ生同士でどんな文献を読みたいかを話し合っ てテキストを決めるので、履修希望者は前もって考えておいてください。 なお、この授業の履修を希望する学生はゼミ分けアンケートの理由欄に、社会心理学や政治学など、どんな 学問分野に関心があるかと、どんなテーマの文献が読みたいかについて書いてください。質問や相談がある場 合は亀ヶ谷研までお越しください。		
評価方法	発表・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>経営に関する基礎的・専門的な知識について全国レベルで資格認定する唯一の検定試験である「マネジメント検定(経営学検定)」の試験対策を通じて、実社会で積極的に企業活動に参画していくために必要なマネジメント観を養うことがテーマである。</p> <p>経営学の基礎的な概念について学修することにより、1. 経営学や実社会で用いられる用語や理論について理解して説明することができる、2. 学修した用語や理論を用いて実社会の企業活動について理解して説明することができる、3. 実社会の企業活動について理解した上で自分自身の初期的なキャリアデザインを描くことができる、という能力を身に付けることが本講義における到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 目標設定と戦略的な学習プロセスの策定</p> <p>第3回 企業システム(Part.1)：企業と経営、企業・会社の概念と諸形態</p> <p>第4回 企業システム(Part.2)：所有・経営・支配と経営目的、企業統治</p> <p>第5回 経営戦略(Part.1)：基礎理論、全社戦略</p> <p>第6回 経営戦略(Part.2)：事業戦略、機能別戦略</p> <p>第7回 経営組織(Part.1)：基礎理論、組織の基本形態</p> <p>第8回 経営組織(Part.2)：企業組織の諸形態、制度・管理・文化</p> <p>第9回 経営管理(Part.1)：基礎理論、マネジメントの階層とプロセス</p> <p>第10回 経営管理(Part.2)：経営計画、コントロール</p> <p>第11回 経営課題(Part.1)：M&Aと買収防衛策、経営のグローバリゼーション</p> <p>第12回 経営課題(Part.2)：企業経営と情報化、CSRと企業倫理</p> <p>第13回 模擬試験(Part.1)</p> <p>第14回 模擬試験(Part.2)</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	「マネジメント検定(経営学検定)」の解説書を輪読した後に過去問題に取り組み、その後に解答と解説をおこなう形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] レジュメの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
テキスト	レジュメを適宜配布する形式を採用する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく、いかに簡単に捉えることができるか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	第2回目の講義において学生自身が設定した目標の達成率(100%)
参考文献	一般社団法人日本経営協会編(2023).『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)経営学の基本』中央経済社。 一般社団法人日本経営協会編(2018).『経営学の基本(経営学検定試験公式テキスト)』中央経済社。

備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>「教養ゼミ」とは異なり、より専門的、応用的な領域を学び始めるため、経済学に関する専門領域の初歩から初期的応用について学ぶ。配布プリントの内容を十分整理、理解することが重要である。「基礎ゼミ四」では、応用経済学の範囲の「トピック」を題材に学習をすすめていく。具体的な到達目標は、次の通りである。 ①食料経済学の視点から「食」をとりまく課題について説明できる。②開発経済学の視点から、「人口問題」について討議できる。③環境経済学の視点から、「資源循環」にあり方について述べるができる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	食料経済学の視点（1）：経済発展と食生活の変化	
	第3回	食料経済学の視点（2）：食料輸入の増大と食料自給率の推移	
	第4回	食料経済学の視点（3）：わが国の主要食料品生産・流通・消費	
	第5回	食料経済学の視点（4）：「食」の外部化と展開と食品産業の特質	
	第6回	食料経済学の視点（5）：「食」の安全性と品質の確保	
	第7回	開発経済学の視点（1）：人口増加と貧困問題－貧困のメカニズム－	
	第8回	開発経済学の視点（2）：人口転換と出生の経済学	
	第9回	開発経済学の視点（3）：発展途上国の食料需給構造	
	第10回	開発経済学の視点（4）：先進国の食料需給構造	
	第11回	環境経済学の視点（1）：環境経済学とは	
	第12回	環境経済学の視点（2）：経済発展と環境問題、変遷とその対策	
	第13回	環境経済学の視点（3）：わが国の物質フローからみた資源循環	
	第14回	環境経済学の視点（4）：資源循環からみた再資源化	
	第15回	環境経済学の視点（5）：持続可能な環境・資源利用とコモンズ	
授業概要	<p>「基礎ゼミ四」では、経済学にかかわる基盤的知識を学び、理解できるようになることを目標とする。具体的には、食料問題・開発途上国の貧困問題・環境問題の現状について理解を深め、問題意識を養う。設定されたテーマについて解説後、学生が考え、ディスカッションを行う。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業後、参考文献等を利用し復習する。		
テキスト	資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	現代の世界が抱える社会課題について、経済学の視点から学びます。様々な社会課題の現状を知ることによって、自分自身の問題意識を持つきっかけにしてほしいと思います。		
評価方法	課題提出と報告に関する質疑応答等、授業への取り組み方（60%）、レポート課題（40%）、合計：100%で評価する。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業のテーマ・到達目標は以下の全てとなります：</p> <p>1. 実際の作品分析を通して、記号論や映像論・写真論・アニメーション研究・マンガ研究などにおける批評理論の基本的枠組を理解できる。</p> <p>2. 作品批評をプレゼンテーションとして発表し、かつコメントし、それらをまとめた文章としてできる能力を獲得する。</p> <p>3. 個別の作品の分析にとどまらず、特定のジャンルやその歴史的／社会的／政治的／文化的側面といった、包括的な視点からの批評意識をもつことができるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 作品分析の方法論</p> <p>第3回 視覚文化研究の文献講読(1)</p> <p>第4回 作品鑑賞と分析(1)</p> <p>第5回 受講生による報告発表(1)</p> <p>第6回 視覚文化研究の文献講読(2)</p> <p>第7回 作品鑑賞と分析(2)</p> <p>第8回 受講生による報告発表(2)</p> <p>第9回 視覚文化研究の文献講読(3)</p> <p>第10回 作品鑑賞と分析(3)</p> <p>第11回 受講生による報告発表(3)</p> <p>第12回 視覚文化研究の文献講読(4)</p> <p>第13回 作品鑑賞と分析(4)</p> <p>第14回 受講生による報告発表(4)</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	<p>基本的には文献講読を行なったうえで、2～3人の受講生による作品分析と報告発表を演習形式で行います。分析に必要な理論や概念を発表の合間に講義します。分析作品は受講生の興味・関心に応じて決めていく予定です。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>授業で取り上げている映画・映像作品に関連する作品を別途鑑賞することを求めます。また受講生の報告発表の内容に関連してその他参考作品を提示してもらうこともあります。</p>
テキスト	<p>資料プリントを適宜配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>作品の「感想」「印象」と、「鑑賞」「批評」とはまったく似て非なるものです。感性的に与えられたものについて分析的に捉えて考察する「眼」と、その分析を言語化し、他の人に解説する能力を養っていただければと考えています。</p>
評価方法	<p>報告発表70%、期末レポート課題30%。</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：基礎ゼミ六（40760）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	(1) 日商簿記検定3級で求められる簿記の知識とスキルを定着させること。 (2) 仕訳、補助簿、伝票、商品有高帳、試算表、精算表、簿記の締め切りの手続きを遂行できること。 (3) 簿記一巡の手続きを理解すること。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。授業内容の説明。簿記一巡の手続きの復習。 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 簿記一巡の手続きの復習。</p> <p>第3回 仕訳の問題1</p> <p>第4回 仕訳の問題2</p> <p>第5回 仕訳の問題3</p> <p>第6回 総勘定元帳と補助簿の問題</p> <p>第7回 総勘定元帳と補助簿の問題2</p> <p>第8回 伝票の問題</p> <p>第9回 試算表の問題</p> <p>第10回 精算表の問題</p> <p>第11回 精算表の問題2</p> <p>第12回 精算表の問題3</p> <p>第13回 帳簿の締め切りの問題</p> <p>第14回 財務諸表の作成の問題</p> <p>第15回 財務諸表の作成の問題2</p>
授業概要	このゼミでは、日商簿記検定3級の過去問を解きながら、簿記一巡の手続きへの理解を深める。前期の「応用情報処理演習II」と「応用情報処理演習III」で習得した簿記の基本的な知識とスキルを発展させる形で、問題を解く。簿記を更に学習したい、簿記の検定を受け取る人向けのゼミである。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では1時間の事前と事後の学習を前提としている。
テキスト	授業で資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	簿記の検定は老若男女、職業を問わず、多くの人が受ける検定です。金融機関や企業の会計などに携わる人には必須と言っても過言ではありません。また、簿記の知識とスキルは企業経営や経済はもちろん、暮らしの中の金の動きを理解するためにも不可欠なので、ぜひこの機会に勉強しましょう。
評価方法	授業課題およびノートの点検および授業課題：40%。 期末試験：40%。 平常点：20%。 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】生活に深く浸透したITや企業における経営についてのより深い学びを行います。 【到達目標】ITと経営に関する知識について説明することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 システム開発技術（システム開発のプロセス、要件定義、システム設計）・確認テスト</p> <p>第3回 システム開発技術（テストの技法、テスト評価、システムの導入・受け入れ、運用・保守）・確認テスト</p> <p>第4回 ソフトウェア開発手法（ソフトウェア開発モデル、共通フレーム）・確認テスト</p> <p>第5回 ソフトウェア開発手法（アジャイルソフトウェア開発）・確認テスト</p> <p>第6回 プロジェクトマネジメント（プロジェクトの意義とその目的）・確認テスト</p> <p>第7回 プロジェクトマネジメント（プロジェクトのプロセス）・確認テスト</p> <p>第8回 プロジェクトマネジメント（10の知識エリア）・確認テスト</p> <p>第9回 プロジェクトマネジメント（アローダイアグラム）・確認テスト</p> <p>第10回 サービスマネジメント（サービスレベルの合意）・確認テスト</p> <p>第11回 サービスマネジメント（サービスマネジメントシステム、サービスレベル管理）・確認テスト</p> <p>第12回 サービスマネジメント（サービスデスク、ファシリティマネジメント）・確認テスト</p> <p>第13回 システム監査（システム監査の意義とその目的）・確認テスト</p> <p>第14回 システム監査（システム監査のプロセス、その他の監査業務）・確認テスト</p> <p>第15回 内部統制とITガバナンス・確認テスト</p>
授業概要	経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識し、特にプロジェクトマネジメントやシステム開発などIT管理（マネジメント系）に関する基礎知識を身に付けていく。またITパスポート試験の公開問題にチャレンジしていく。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし基礎ゼミ七の運営を行う。
時間外学習	【事前・事後学修】ITパスポート試験の合格に向けて、毎回指定した範囲の確認テストを実施する。テキストやノート等を参照しながらテスト範囲の内容の理解を深める。（所要時間：各回4時間以上）
テキスト	初回のゼミ時に指示する。例えば、FOM出版「よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」（2,420円（税込））がある。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミ配属条件は次の3つを条件とする。①「IT概論」と「経営学入門」の2科目を履修済みであること、②学期末にITパスポート試験の受験を行うこと、③ITパスポート試験合格の場合は広報活動に参加すること
評価方法	各単元の重要事項および確認テストの範囲での重要事項をまとめたノート提出を50%、確認テストの得点の合計点（確認テストの配点の総合計を満点とする）を50%
参考文献	ITや経営に関するテキストが図書館に数多く所蔵されています。
備考	配布資料やテキストなどを毎回必ず持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	論文を執筆できる。		
授業計画	第1回	ガイダンス（講義方針の共有／調査技術 調べること／調査課題と方法の検討）	
	第2回	調査技術（文献や資料を調べる）	
	第3回	調査技術（フィールドワークをする）	
	第4回	調査テーマの発表	
	第5回	論理的文章（日本語と論理—伝えるためのマナー）	
	第6回	論理的文章（議論の日本語—論文をめざして）	
	第7回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論）	
	第8回	前期中間報告	
	第9回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自のレポートに即して	
	第10回	進捗報告(1) ・問いと答え、アウトラインを中心に	
	第11回	進捗報告(2) ・論理構成を中心に	
	第12回	進捗報告(3) ・結語と残された課題を中心に	
	第13回	期末レポート発表—説得型— 前期末レポートの提出	
	第14回	期末レポート発表—レビュー型— 前期末レポートの提出	
	第15回	コメントを基に期末レポート再構成	
	第16回	ガイダンス（調査課題と方法の再検討）	
	第17回	調査技術（文献や資料を調べる）	
	第18回	調査技術（フィールドワークをする）	
	第19回	後期中間報告—説得型—	
	第20回	後期中間報告—レビュー型—	
	第21回	論理的文章（日本語と論理—伝えるためのマナー）	
	第22回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論）	
	第23回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自のレポートに即して	
	第24回	進捗報告(4) ・問いと答え、アウトラインを中心に	
	第25回	進捗報告(5)	

	<p>・論理構成を中心に</p> <p>第26回 進捗報告(6)</p> <p>・結語と残された課題を中心に</p> <p>第27回 後期末レポート発表—説得型—</p> <p>第28回 後期末レポート発表—レビュー型—</p> <p>第29回 後期末レポート発表—説得型—</p> <p>・コメントを受けた修正版の提出</p> <p>第30回 後期末レポート発表—レビュー型—</p> <p>・コメントを受けた修正版の提出</p>
授業概要	レポート作成に必要な知識や社会調査の方法を用いて1万字程度の論文を作成します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選びのための資料検索、資料読解、レポートの執筆・推敲は時間外学習として各自すすめてください ・講義時間の進捗報告ではテーマの絞り込み、レポートへのコメントを中心におこないます。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会学」「情報社会論」「地域社会学」「環境社会学」「社会調査演習」のうち、少なくとも3科目を既履修であることが望ましいです。 ・次のどれかに取り組みたい学生におすすめてです。 (1)社会学もしくは農山漁村研究の学術書を丁寧に読みたい。 (2)社会学もしくは農山漁村に関連するテーマについてインタビューや参与観察などの質的手法で調査研究したい。 (3)すでに社会学もしくは農山漁村に関連する実践活動を熱心におこなっていて、実践活動を通じて社会課題の解決に探索的に取り組みたい。
評価方法	期末レポート（60%）、進捗報告（40%）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	

講義科目名称：専門ゼミ二（40820）

授業コード：40820

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、卒業研究の作成に必要な知識やスキルを習得することができる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	行動科学概論の復習（文献検索）	
	第3回	行動科学概論の復習（統計分析）	
	第4回	引用文献の発表	
	第5回	引用文献の発表	
	第6回	引用文献の発表	
	第7回	研究計画の発表	
	第8回	研究計画の発表	
	第9回	研究計画の発表	
	第10回	個別指導（前期）	
	第11回	個別指導（前期）	
	第12回	個別指導（前期）	
	第13回	個別指導（前期）	
	第14回	個別指導（前期）	
	第15回	前期ふりかえり	
	第16回	卒論中間提出・第1回添削校正大会	
	第17回	個別指導（後期）	
	第18回	個別指導（後期）	
	第19回	個別指導（後期）	
	第20回	個別指導（後期）	
	第21回	個別指導（後期）	
	第22回	個別指導（後期）	
	第23回	個別指導（後期）	
	第24回	卒論原稿提出・第2回添削校正大会	
	第25回	卒論発表会	

	<p>第26回 卒論発表会</p> <p>第27回 添削と推敲</p> <p>第28回 添削と推敲</p> <p>第29回 卒業論文集編集大会</p> <p>第30回 後期ふりかえり</p>
授業概要	<p>前期はオリエンテーションと復習を行った後、卒業論文の引用文献と研究計画について、順番に各自発表してもらう。後期は卒業論文の中間提出と添削校正を行った後、順番に個別指導を進める。推敲や編集作業を経て、最後に卒業論文集を作り上げる。各自の研究テーマは、政治や社会心理、文化に関するものなど、自由に決めてよい。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。</p>
テキスト	<p>なし。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>人間や社会に対する好奇心が旺盛で、自主的に卒業研究に取り組み、締切までに卒業論文を確実に提出できる学生を歓迎します。コロナ禍で中断していたゼミ旅行も再開できればと思います。この授業の履修を希望する学生はゼミ分けアンケートの理由欄に、社会心理学や政治学など、どんな学問分野に関心があるかと、どんなテーマで卒論をまとめたかについて書いてください。質問や相談がある場合は亀ヶ谷研までお越しく下さい。過去のゼミ卒論集も亀ヶ谷研で読むことができますので、卒論テーマ選びの参考にしてください。</p>
評価方法	<p>発表・課題（70%）、授業への参加度（30%）</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ三(40830)

授業コード：40830

英文科目名称：Pro. Seminar 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>広義の組織・企業を対象とした経営研究を通じて、経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論などから自らが選択した学問領域の理論や分析手法を学修し、実際の組織・企業活動のメカニズムを探求することが本講義のテーマである。また、既存研究の成果を丹念にレビューすることを通じて自らが課題や仮説を設定し、それを探求することによって一定の研究成果を導出することが到達目標である。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス：研究分野とリサーチサイト	
	第2回	リサーチクエスション：仮説発見と仮説検証，魅力と現実	
	第3回	リサーチクエスション：既存研究の調査方法	
	第4回	リサーチクエスションの設定と報告に向けて (Part. 1)	
	第5回	リサーチクエスションの報告に向けて (Part. 2)	
	第6回	リサーチクエスションの報告と議論	
	第7回	アカデミックライティングの作法：概要と必要性	
	第8回	アカデミックライティングの作法：倫理観とペナルティ	
	第9回	アカデミックライティングの作法：模倣と新規性	
	第10回	個別指導 (Part. 1)	
	第11回	個別指導 (Part. 2)	
	第12回	個別指導 (Part. 3)	
	第13回	個別指導 (Part. 4)	
	第14回	進捗状況の報告と議論 (Part. 1)	
	第15回	進捗状況の報告と議論 (Part. 2)	
	第16回	進捗状況の報告と研究計画の修正	
	第17回	個別指導 (Part. 5)	
	第18回	個別指導 (Part. 6)	
	第19回	個別指導 (Part. 7)	
	第20回	個別指導 (Part. 8)	
	第21回	個別指導 (Part. 9)	
	第22回	個別指導 (Part. 10)	
	第23回	個別指導 (Part. 11)	
	第24回	個別指導 (Part. 12)	

	第25回 個別指導(Part. 13)
	第26回 個別指導(Part. 14)
	第27回 個別指導(Part. 15)
	第28回 口頭試問(Part. 1)
	第29回 口頭試問(Part. 2)
	第30回 口頭試問(Part. 3)
授業概要	広く細分化された経営学術領域のうち、どの分野を自陣とするのか、その分野でどのような研究を遂行して貢献を果たすのか、などの基本的研究姿勢について説明した後、個別指導の形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] 取り扱う既存研究のレビューを丹念におこない、用語や分析手法を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] 配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、研究分野のドミナント・セオリー等を理解することに加えて、各自の研究に適用できるセオリーについて理解した上で、適用する局面や場面を想定すること(各回1時間程度)。 また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
テキスト	受講者の適性に合わせて指定する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	本ゼミは、学生一人ひとりに適した研究テーマや研究手法を提案して指導する単独主義的な個別指導を採用します。そのため、時間割で割り当てられた時間ではひとつの空間に集合して研究作業をしてもらいますが、各々の主たる研究作業は担当教員の監修のもとで講義時間外におこなっていただきます。
評価方法	成果物(100%)
参考文献	受講者の適性に合わせて指定する。
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
山田 忍			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>「専門ゼミ四」においては、卒業論文の作成を進めていく。関連文献及びデータの収集並びに整理の仕方、実態調査を行う場合の方法等を学習する。具体的な到達目標は、次の通りである。①各自の問題意識の論理的な内容について理解し、分析できる。②他者に対してわかりやすいプレゼンテーションを実施することができる。③コミュニケーション力を高め、課題の提案・問題解決力等の能力を伸ばすことができる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	研究・調査の方法を学ぶ	
	第3回	研究の具体例（1）：具体的調査方法を学ぶ	
	第4回	研究の具体例（2）：資料検索・利用方法を学ぶ	
	第5回	研究の具体例（3）：課題に適合した分析手法を学ぶ	
	第6回	卒業研究テーマの決定（1）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告	
	第7回	卒業研究テーマの決定（2）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告	
	第8回	卒業研究テーマの決定（3）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告	
	第9回	卒業研究テーマの決定（4）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告	
	第10回	関連資料の収集・整理（1）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示	
	第11回	関連資料の収集・整理（2）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示	
	第12回	関連資料の収集・整理（3）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示	
	第13回	関連資料の収集・整理（4）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示	
	第14回	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（1）	
	第15回	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（2）	
	第16回	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（3）	
	第17回	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（4）	
	第18回	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（1）	
	第19回	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（2）	
	第20回	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（3）	
	第21回	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（4）	

	第22回	卒業論文の作成（1）：卒業論文の作成経過を報告する
	第23回	卒業論文の作成（2）：卒業論文の作成経過を報告する
	第24回	卒業論文の作成（3）：卒業論文の作成経過を報告する
	第25回	卒業論文の作成（4）：卒業論文の作成経過を報告する
	第26回	プレゼンテーションの準備（1）
	第27回	プレゼンテーションの準備（2）
	第28回	プレゼンテーションの準備（3）
	第29回	プレゼンテーションの準備（4）
	第30回	成果発表会
授業概要	「専門ゼミ四」においては、①卒業論文のテーマ決定、②関連資料の収集、③ヒアリング調査及びアンケート調査項目の設計、④ヒアリング調査及びアンケート調査の実施、⑤研究成果についてのプレゼンテーションまでを目標とする。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業後、参考文献等を利用し復習する。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業論文は、自分の興味のあるテーマについて、自分自身で疑問を持ち、その疑問について分析・検証しながらまとめていきます。卒業論文の作成に際しては、自分で調べ、行動し、文章をまとめる必要がありますが、オリジナリティを表現できる貴重な機会です。これまで本学で得た様々な知識を基盤に、新たな自分の発見のために真剣に取り組んでみてください。	
評価方法	各回の「演習」に対する報告及び質疑討論の内容を評価（60%）、卒業論文（40%）、合計：100%で評価する。	
参考文献		
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業の到達目標は以下の全てとなります：</p> <p>1. イラストレーション／映像・写真／デジタルアート／メディアアート／サブカルチャーなどの分野の作品研究を通して現代のメディア表現について理解し、その概要や特性・特徴を記述できる。</p> <p>2. 上述の作品研究によって得た知識に立脚した自らの作品制作を完遂できる表現力を身につける。</p> <p>3. 制作作品展を計画・運営することで、表現力に付随した企画・広報ができる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	文献講読(A) (映像表現)	
	第3回	ワークショップ(A1)	
	第4回	ワークショップ(A2)	
	第5回	文献講読(B) (イラストレーション)	
	第6回	ワークショップ(B1)	
	第7回	ワークショップ(B2)	
	第8回	文献講読(C) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第9回	ワークショップ(C1)	
	第10回	ワークショップ(C2)	
	第11回	文献講読(D) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第12回	ワークショップ(D1)	
	第13回	ワークショップ(D2)	
	第14回	作品研究論文の構想発表(1)	
	第15回	夏季の課題と習作の構想・計画	
	第16回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(1)	
	第17回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(2)	
	第18回	作品研究に関するブックレビュー(1)	
	第19回	作品研究に関するブックレビュー(2)	
	第20回	作品研究論文の構想発表(2)	
	第21回	制作作品の構想発表	
	第22回	文献講読(E) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第23回	ワークショップ(E1)	
	第24回	ワークショップ(E2)	

	<p>第25回 作品研究論文の経過報告(1)</p> <p>第26回 制作作品の経過報告(1)</p> <p>第27回 作品研究論文の経過報告(2)</p> <p>第28回 制作作品の経過報告(2)</p> <p>第29回 制作作品の提出と講評</p> <p>第30回 卒業制作作品展の準備、作品研究論文の提出</p>
授業概要	<p>卒業研究として研究論文の執筆ならびに作品の制作を行います。映像・イラストレーション作品制作やデジタル音楽制作、あるいはいわゆるサブカルチャー研究を活動範疇とし、研究と制作の両方を実践的に学びます。前期はメディア文化史に関する文献講読、ならびに情報デザインと表現技法についてのワークショップを行います。夏期休業中には各人の興味に応じた課題（写真500枚以上あるいはイラスト50枚以上、その他応相談）ならびに習作の提出を課します。後期には各人の卒業制作作品と研究論文について、定期的に報告発表をもらいながらその最終的な完成を目指します。</p> <p>「メディア文化論」「メディア表現論」「視覚文化論」のうち、少なくとも2科目を既履修であることが望ましいです。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>論文と制作のどちらを主にするかは受講生の志向次第ですが、授業のための発表や調査、ならびに習作課題を定期的に提出してもらいます。また研究室の機関誌を年数回発行しますので、誌上で批評・習作・エッセイ・レビューなどを恒常的に発表してもらうことになります。</p>
テキスト	<p>資料プリントを適宜配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>作品研究に関しては日頃からの作品鑑賞、作品制作に際しては日々の修練が求められます。またワークショップ形式での課題演習や集団制作などを頻繁に取り入れますので、デジタル加工技術の習得、主体性や創造性／想像力は勿論のこと、他の受講生との協調性・協働性も大きく問われます。</p>
評価方法	<p>作品研究論文50%、制作作品50%（受講生の興味・関心・進路希望等に応じて比率は変動しますが、基本的には研究論文と作品の両方を提出することになります）</p>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>会計学の基本である商業簿記（「応用情報処理演習」と「応用情報処理演習Ⅲ」）および工業簿記（「応用データ分析」）の学習を踏まえて、前期と後期の一部では日商簿記検定2級「商業簿記」分野の範囲を網羅する形で授業を行います。後期の残りの時間は、授業で扱っていない工業簿記（「応用データ分析」）の範囲を学習する。</p> <p>卒業研究のテーマは、会計学またはマーケティング関連のものである。マーケティング関連のテーマの基本は「データ分析入門」であるため、授業で習得した知識が不可欠である。</p> <p>問題の発掘、分析と解決・取り組み方のスキルを養い、卒業研究を行うことで研究の心構え、進め方等を習得する。</p>
授業計画	<p>前期</p> <p>① 【専門ゼミ】 ガイダンス</p> <p>(a) 前期には商業簿記の勉強会を行う (b) 後期には工業簿記の学習を行う</p> <p>【卒業研究】 (a) 卒業研究の進め方等の説明</p> <p>※以下は個別面談・対応方式で行う（週一回）</p> <p>前期</p> <p>② ～ ⑤ 【専門ゼミ】 商業簿記3級の問題</p> <p>【卒業研究】 テーマの検討および決定</p> <p>前期</p> <p>⑥ ～ ⑫ 【専門ゼミ】 商業簿記2級の問題</p> <p>【卒業研究】 調査系の場合（例） ・資料の収集、調査の計画、予備調査の実施、本調査の検討等</p> <p>前期</p> <p>⑬ ～ ⑮ 【専門ゼミ】 簿記検定の対策</p> <p>【卒業研究】 卒業論文の下書きの作成。</p> <p>後期</p> <p>① 【専門ゼミ】 工業簿記の概要</p> <p>【卒業研究】 ガイダンス</p> <p>後期</p> <p>② ～ ⑨ 【専門ゼミ】 工業簿記の学習</p> <p>【卒業研究】 卒業論文の下書きの修正</p> <p>後期</p> <p>⑩ ～ ⑭ 【専門ゼミ】 工業簿記2級の問題</p> <p>【卒業研究】 卒業論文の添削・点検</p> <p>後期</p> <p>⑮ 【専門ゼミ】 簿記検定の対策</p> <p>【卒業研究】 論文の完成</p>

授業概要	<p>【専門ゼミ】と【卒業研究】の内容は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【専門ゼミ】（4単位）勉強会。枠組みは「簿記」である。 ●【卒業研究】（2単位）卒業研究テーマを決めて進める。卒業研究は「簿記」「マーケティング」「データ分析」の分野に関するテーマで行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1時間ほどの事前学習と事後学習を前提としている。。
テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	上の枠組みとは異なる分野でも構いませんが、事前に相談に来てください。
評価方法	<p>詳細はゼミ紹介のガイダンス時に提示するが、概ね次のように取り組みを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【専門ゼミ・前期】 商業簿記検定の勉強会：過去問（15回） ●【専門ゼミ・後期】 工業簿記の勉強会：解説（15回） ●【卒業研究】卒業研究の成果物（卒業論文）
参考文献	初回に紹介する。
備考	【専門ゼミ】と【卒業研究】の授業内容は連動しているが、単位は別々に認定する。

講義科目名称：専門ゼミ七（40870）

授業コード：40870

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】情報・地理情報・空間情報に関するテーマに対して、自ら取り組み、考え、解決し、成果を出す。</p> <p>【到達目標】実社会において必要な「与えられた仕事に対して、主体的に取り組み、考え、解決し、結果を出す力」を活用できる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	輪読①：研究の進め方について	
	第3回	輪読②：研究の進め方について	
	第4回	卒業研究のテーマの選定	
	第5回	卒業研究のテーマの選定	
	第6回	輪読③：研究の進め方について	
	第7回	輪読④：研究の進め方について	
	第8回	輪読⑤：研究の進め方について	
	第9回	参考文献の発表	
	第10回	参考文献の発表	
	第11回	参考文献の発表	
	第12回	参考文献の発表	
	第13回	参考文献の発表	
	第14回	参考文献の発表	
	第15回	全体報告会	
	第16回	輪読⑥：論文執筆について	
	第17回	構成の企画	
	第18回	アウトライン構成	
	第19回	原稿執筆、全体相談会	
	第20回	原稿執筆、全体相談会	
	第21回	原稿執筆、全体相談会	
	第22回	原稿執筆、全体相談会	
	第23回	原稿執筆、全体相談会	
	第24回	原稿執筆、全体相談会	

	第25回	原稿提出、全体相談会
	第26回	全体の推敲と添削
	第27回	全体の推敲と添削
	第28回	全体の推敲と添削
	第29回	全体の推敲と添削
	第30回	完成版卒業論文提出 卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出。提出日時は厳守。
授業概要	情報・地理情報・空間情報を卒業研究のテーマとして取り扱う。各々が設定したテーマに基づいて卒業研究を進めていく。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし専門ゼミ七の運営を行う。	
時間外学習	ゼミで学んだ内容を深く理解するには時間外学習が不可欠である。【事前・事後学修】として文献研究や報告会発表用のスライド資料の作成準備などを自主的に進めておくことはもちろんのこと、ゼミや卒業研究で必要な各種成果物の作成は指定された期日までに取り組み提出することが挙げられる。	
テキスト	必要な資料は適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究のテーマに積極的かつ主体的に取り組む必要がある。各自で研究を計画的に進め、卒業研究の進捗状況を定期的に報告してほしい。	
評価方法	参考文献の発表、進捗状況の報告や全体報告会での報告を40%、卒業研究に関わる成果物など(卒業論文、報告会での報告資料、その他指定された成果物)を60%として評価する。卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出締め切り日時は厳守。	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミⅧ(40880)

授業コード：40880

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業テーマ 学習者としての自立を目指す。</p> <p>到達目標 論文の書き方の基礎を学ぶことにより、論文に必要な要素と形式をふまえて自己の関心が高い領域における短大学士論文を書き上げることができる。このことにより、社会生活においても内面的思考と外的思考を使い分ける力を身に着けることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 研究方法の学習（論文作成の基本とゼミの進め方）</p> <p>第2回 研究方法の学習（論文作成の基本とゼミの進め方）</p> <p>第3回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第4回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第5回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第6回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第7回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第8回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第9回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第10回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第11回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第12回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第13回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第14回 研究計画作成と個別指導（研究計画完成の期限）</p> <p>第15回 夏休み前の発表会と意見交換（研究計画の発表会）</p> <p>第16回 夏休み後の発表会と意見交換（研究の進捗状況の発表会）</p> <p>第17回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第18回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第19回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第20回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第21回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第22回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第23回 卒業論文の作成と個別指導</p>

	第24回	卒業論文の作成と個別指導
	第25回	卒業論文の作成と校正（校正前の論文の完成）
	第26回	卒業論文の作成と校正
	第27回	卒業論文の作成と校正
	第28回	卒業論文の作成と校正（論文の完成）
	第29回	卒業論文の読み合わせと発表会
	第30回	卒業論文の読み合わせと発表会
授業概要	最初に論文を作成するための基本を確認します。その後、前期は研究計画についての一人一人の発表と議論を行い研究テーマを明確にしていきます。後期に入って、個別の助言を経て論文の完成に結びつけていきます。	
実務経験及び授業の内容	小・中学校及び高校での実務経験を生かして、より個性を尊重した授業にできればと考えています。	
時間外学習	授業はよりよい論文作りの議論が主となります。よって、実際の論文作成は時間外で行うことや、論文作成に必要な時間は少なくないことを理解してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配付します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	論文作成に当たっては、まず最初に自分の学びたいことや知りたいこと、他者に伝えたいことを明確にすることが大切です。そのことが意欲を高め、最終的に納得のいく論文の完成につながります。また、仲間と意見し合うことが研究テーマを明確にする側面もあります。ゼミの中でわからないことを相談し合うことのできる雰囲気を大切にしたいと思います。	
評価方法	課題解決への主体性と協働性及び発表と議論の内容（60%） 卒業論文の内容（40%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミ九（40890）

授業コード：40890

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
村井 友樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	論文の作成に必要な知識や能力を習得し、卒業研究に取り組む。到達目標は以下の三点である。 1) 課題を発見することができる。 2) 課題の解決に向けて主体的に行動することができる。 3) 成果を分かりやすく伝えることができる。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	研究方法を学ぶ	
	第3回	研究方法を学ぶ	
	第4回	研究方法を学ぶ	
	第5回	研究テーマを探す	
	第6回	研究テーマを探す	
	第7回	研究テーマの検討	
	第8回	研究テーマの検討	
	第9回	研究計画の作成	
	第10回	研究計画の作成	
	第11回	研究計画の作成	
	第12回	研究計画の作成	
	第13回	研究計画の作成	
	第14回	進捗状況の報告	
	第15回	進捗状況の報告	
	第16回	研究計画の再考	
	第17回	研究の遂行	
	第18回	研究の遂行	
	第19回	研究の遂行	
	第20回	研究の遂行	
	第21回	研究の遂行	
	第22回	進捗状況の報告	
	第23回	進捗状況の報告	

	第24回	論文作成
	第25回	論文作成
	第26回	論文作成
	第27回	論文作成
	第28回	論文作成
	第29回	最終報告
	第30回	最終報告
授業概要	スポーツや健康をテーマとして卒業研究に取り組む。前期は研究方法を学び、テーマを決めて研究計画を作成する。後期は研究を遂行し、論文を執筆する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	各自のテーマに関連する書籍や論文を読むこと。	
テキスト	各自のテーマに即した書籍や論文を指定する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	スポーツには「する人」だけでなく「観る人」「支える人」が存在します。「する人」においてもスポーツの得意、不得意などは関係ありません。少しでもスポーツや健康に興味関心がある学生を歓迎します。	
評価方法	論文70%、発表・報告30%	
参考文献		
備考		